

令和3年度 事業報告書

自 令和3年 4月 1日

至 令和4年 3月31日

社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会

令和3年度 事業報告

少子高齢化や世帯人員の減少、単身化の進行などによる、孤立死や認知症高齢者の増加、住民同士のつながりの希薄化や経済的困窮などを背景とした社会的孤立や子どもの貧困など、地域における福祉課題が複雑多様化、深刻化する中、既存のサービスだけでは対応できない、いわゆる「制度の狭間」で支援を必要としている人たちが増えている。このような課題に対し、必要な支援を包括的に確保し、地域共生社会の実現を目指す総合的な支援策の展開が求められている。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの日常生活は大きく変わり、地域の福祉活動にも大きな影響を及ぼし続けている。

そのような中、本会では、令和2年度に引き続き、「はなれても つながる」取組みをはじめ、「withコロナ」から「afterコロナ」までを見据えた地域福祉の実践に取り組んだ。さらに、コロナ禍の中で、高齢者のフレイル防止や見守り機能強化、交流の機会創出を可能とするアプリの開発をはじめとする、ICT（情報通信技術）を活用した仕組みづくりにも着手した。

また、市社協本部に個別支援型の地域福祉ソーシャルワーカー（以下「CSW」）を配置し、既存の制度に当てはまらない課題について、地域資源や関係機関との連携により解決を図るモデル事業を実施したほか、本会として初めて地域包括支援センターを受託し、個別支援と地域支援を融合させた地域づくりに取り組んだ。

そのほか、福岡市が令和3年10月に設置した「福岡市成年後見推進センター」の事業を受託し、成年後見制度に関する相談対応や後見人等候補者の受任者調整など、成年後見制度の利用促進に向けた体制づくりに取り組んだ。

令和3年度の主な実施事業は、以下のとおりである。

【重点項目】

1. 住民主体の小地域福祉活動の推進

- (1) ふれあいネットワークによる平常時の見守りと災害時の避難支援との連動の強化
- (2) ふれあいサロンをはじめとする居場所づくりの強化
- (3) 「校区福祉のまちづくりプラン」策定の推進
- (4) 小地域での生活支援ボランティア活動の推進
- (5) 多様な主体との連携・協働の推進

2. ボランティアによる社会参加の拡大

- (1) ボランティアの参加や裾野の拡充
- (2) 分野を超えた様々な人・団体等と協力した活動や連携モデルの開発
- (3) 新たな社会課題への対応と課題解決力の向上
- (4) 災害時のボランティアや支援活動を円滑に進めるための日頃からの備え

3. 社会課題解決モデルの開発と拡充

- (1) 地域の子どもプロジェクト
- (2) 買い物支援
- (3) 「終活」支援
- (4) 社会福祉法人等とのさらなる連携・協働
- (5) コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証実験
- (6) 「ファンドレイジング」を組み込んだ社会課題解決の仕組みづくり

4. 権利擁護事業の拡充

- (1) 持続可能な日常生活自立支援事業の実施
- (2) 利用者がメリットを感じられる成年後見制度の利用促進
- (3) 本人を中心とした関係機関の連携・チームによる支援
- (4) 法人後見事業の推進と市民後見の充実

5. 居住支援の推進と空家・空室の活用

- (1) 「断らない相談窓口」の運営
- (2) 「住まいサポートふくおか」による住替え支援の実施
- (3) 居住支援法人
- (4) 制度の狭間を埋める社協ならではの分野横断的な実践
- (5) 空家を福祉活用する「社会貢献型空家バンク」

6. 地域福祉を推進するための基盤づくり

- (1) 個人情報の保護と活用
- (2) 福祉教育の推進

7. 地域福祉ソーシャルワーカー(CSW)の機能強化

- (1) 困難を抱えた人に寄り添いエンパワメントできる専門性を持つCSWの育成
- (2) 様々な生きづらさや共通の問題を持つ方々が自主的につながり、相互に援助し合うセルフヘルプ(自助)グループへの支援
- (3) 多様な相談機関・専門職等との連携強化
- (4) アウトリーチによる相談支援に対応できるCSWの人材配置

重点項目

※特に記載がない場合、文中、グラフ・表中の数値は令和4年3月31日現在のもの。

※「中止」と記載があるものは、すべて新型コロナウイルスの感染拡大の影響によるもの。

1. 住民主体の小地域福祉活動の推進

(1) ふれあいネットワークによる平常時の見守りと災害時の避難支援との連動の強化

一人暮らしの高齢者など、支援を必要とする人々が地域で孤立せず、安心して暮らすことができるよう、地域住民や関係団体が連携して、日常的な見守りなどの支援体制づくりに取り組む「ふれあいネットワーク活動」の更なる拡充に向け、平常時の見守り活動を可視化し、災害時の避難誘導等の仕組みとの連動を図る取組みを支援した。

また、福岡市地域保健福祉振興基金等を財源として、活動費を助成した。

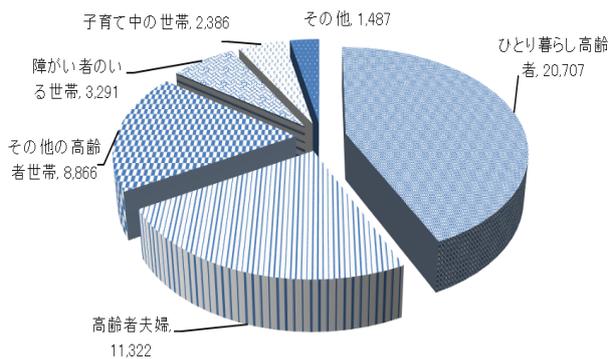
〔実施自治会（町内会）率〕 85.0% 〔助成額〕 18,412,319円

〔活動状況〕

()は前年比の数字

区	校区数	実施 校区数	助成 校区数	実施 自治会数	助成 自治会数	対象世帯数	ボランティア数(人)
東	30	27	27 (1)	375 (△2)	375 (7)	10,598 (1,264)	2,937 (22)
博多	22	21 (1)	20	296 (1)	296 (1)	5,597 (118)	1,642 (121)
中央	14	13 (2)	11	298 (6)	298 (6)	6,975 (198)	915 (△96)
南	25	25	25	303 (2)	303 (2)	7,727 (△226)	2,185 (△44)
城南	11	11	11	145 (△1)	145 (△1)	3,797 (390)	1,308 (△78)
早良	25	23 (1)	23 (1)	234 (10)	234 (10)	7,085 (1,098)	1,971 (67)
西	24	22	22 (1)	154 (△2)	154	6,286 (△10)	1,585 (△72)
合計	151	142 (4)	139 (3)	1,805 (14)	1,805 (25)	48,065 (2,832)	12,543 (△80)

〔活動対象世帯内訳〕



〔活動内容内訳〕

(重複あり)

活動内容		世帯数
安否確認・声かけ・話し相手		48,065
保健福祉サービスの紹介		2,918
生活の支援	ゴミ出し	572
	電球の取り替え	191
	買物代行・薬取り	191
	家事援助(掃除・洗濯・炊事など)	245
	外出援助(通院・買物付添など)	163
	急用時の子どもの送り迎え・預かりなど	21

① ふれあいネットワーク研修会の実施

各校区の担当者・役員を対象に、コロナ禍の中でもつながりを切らない取組みを支援するため、地域の実情に応じた研修会を実施した。

〔実施状況〕 区単位：3回(延参加者数124人)

校区・町内単位：81回(延参加者数2,128人)

※主なテーマ：避難行動要支援者名簿の活用、見守りマップ作成、講話等

(2) ふれあいサロンをはじめとする居場所づくりの強化

一人暮らしや身体機能の低下等により家に閉じこもりがちな高齢者等の引きこもりの解消や認知症・介護予防等を目的として、地域のボランティアが公民館や集会所等でレクリエーションや健康体操等の活動を取り入れ、交流・ふれあいの場を広げる「ふれあいサロン活動」の拡充を支援した。特に、地域の実情に応じたふれあいサロン活動の介護予防機能の強化に向けた働きかけを行った。また、福岡市地域保健福祉振興基金等を財源として、コロナ禍の中でもサロン活動を柔軟に実施できるよう、令和3年度は、従来の「ふれあいサロン助成金」の一部(上限あり)を、緊急事態宣言発出等による一時休止期間中でもサロン利用者の支援に取り組む「はなれても つながる」活動に活用できることとした。

〔助成額〕 15,579,684円

(内訳) サロン活動助成：9,552,503円

〔活動状況〕

()は前年比の数字

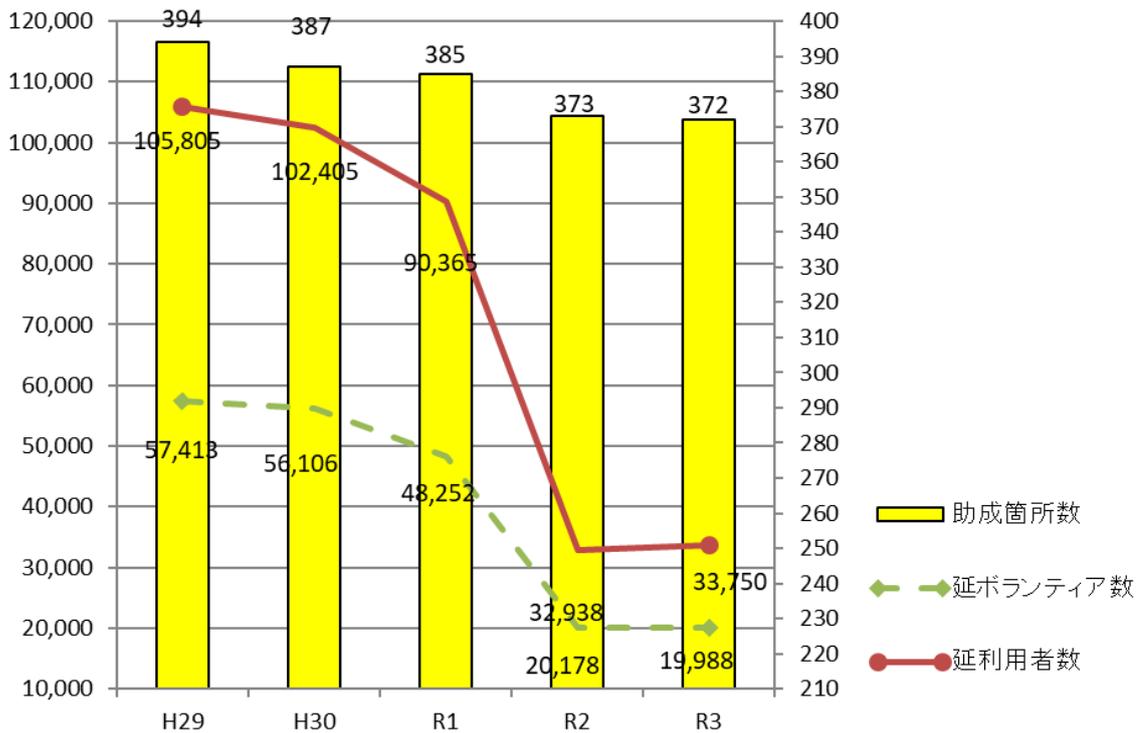
区	校区数	助成校区数	助成箇所数	延実施回数	延利用者数(人)	延ボランティア数(人)
東	30	26	77 (1)	608 (55)	6,493 (520)	4,275 (322)
博多	22	19	53 (3)	538 (17)	6,169 (368)	2,657 (△83)
中央	14	12 (△1)	28 (△1)	171 (△14)	1,592 (82)	1,146 (17)
南	25	22 (△2)	41 (△3)	357 (△23)	3,713 (△110)	2,270 (△89)
城南	11	9 (△2)	39 (△2)	264 (△31)	2,706 (△400)	1,560 (△233)
早良	25	23	56 (△1)	603 (△9)	6,592 (119)	4,267 (△327)

区	校区数	助成校区数	助成箇所数	延実施回数	延利用者数(人)	延ボランティア数(人)
西	24	22	78 (2)	642 (10)	6,485 (233)	3,813 (203)
合計	151	133 (△5)	372 (△1)	3,183 (5)	33,750 (812)	19,988 (△190)

(参考) 1回あたりの平均利用者数：10.6人 (+0.2人)

1回あたりの平均ボランティア数：6.3人 (±0人)

[助成箇所数、延ボランティア数、延利用者数の推移]



① ふれあいサロン研修会の実施

各校区の担当者・役員を対象に、新型コロナウイルスの感染対策を講じた運営やプログラムの支援、「はなれても つながる」取組みの周知・啓発をするなどの研修会を実施した。

区社協によっては、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、研修を実施する代わりに、資料を送付した。

[実施状況] 区単位：4回 (延参加者数137人)

校区・町内単位：11回 (延参加者数132人)

※主なテーマ：コロナ禍の中でのプログラム、各サロンの活動共有、講話 等

② 出前講座協力機関情報の提供

ふれあいサロン等へ、講話やレクリエーションなどの出前講座ができる企業・団体等の冊子を作成・配布し、プログラム策定の支援を行った。

③ 介護予防機能強化に向けたプログラム指導者等の派遣

ふれあいサロン等における介護予防機能強化を目的として、区社協で養成したボランティアをグループ化し、指導者として派遣を行った。

区	グループ名	派遣先	派遣回数
東	お元気届け隊	ふれあいサロン	31
博多	お元気届け隊	新型コロナウイルスの感染拡大により派遣の機会はなく、定例会を3回実施した。	
南	南区ほがらかたい	ふれあいサロン	2
城南	楽しか隊	ふれあいサロン	1
西	わくわくキッズ	ふれあいサロン	2

④ つながりを継続するための支援【早良】

コロナ禍の影響で、ふれあいサロン活動が中止となったり、対面での安否確認が難しくなったりするなど、高齢者の外出の機会や人と接する機会が減少する中、つながりを継続するための支援策が求められている。そこで、福岡大学との協働によるICTを活用した実証実験として、ビデオ通話機能があるタブレット端末を高齢者とボランティアに貸与し、様々な事情で集まりに來られない高齢者とサロンや、気になる高齢者と見守りボランティアをオンラインでつなぐ試みを行った。

(3) 「校区福祉のまちづくりプラン」策定の推進

地域課題やその解決策を住民が主体的に話し合い、自ら目標を定め今後の活動目標等を見える化し、実践につなげる方法として「校区福祉座談会」などを開催するとともに、その内容をより多くの住民で共有するため、新たに3校区で「校区福祉のまちづくりプラン」策定を支援した。これまでに市内58校区のプラン策定を支援している。

[令和3年度新規策定校区]

区	校区	プラン名
博多	千代	千代校区福祉のまちづくりプラン
	那珂	那珂校区福祉のまちづくりプラン
中央	草ヶ江	草ヶ江校区福祉のまちづくりプラン

(4) 小地域での生活支援ボランティア活動の推進

① ご近所お助け隊支援事業

i) 生活支援ボランティアグループの立上げ・運営支援

日常の“ちょっとした困りごと”のお手伝いを、身近な地域で行う「生活支援ボランティアグループ」に対して、情報提供や既存のグループから助言を受ける場のコーディネートなどを支援した。

[活動団体数] 53団体

ii) 生活支援ボランティアグループへの費用助成

「ご近所お助け隊支援事業」として、新規立上げ時の初期費用及び運営体制強化の費用を助成し、生活支援ボランティアグループの活動を支援・促進した。

[助成団体数・額] 13団体・533,000円

区	団体数	立上げ助成数	運営強化助成数
東	3	1	3
博多	3	1	2
中央	0	0	0
南	3	1	2
城南	0	0	0

区	団体数	立上げ助成数	運営強化助成数
早良	3	0	3
西	1	0	1
合計	13	3	11

※重複あり

iii) 生活支援ボランティア研修会及び交流会（福岡市委託事業）

生活支援ボランティアグループと、活動を検討している団体を対象に、先進地事例を学ぶ実践発表や、お互いの活動状況や課題等に関する意見交換を行った。

実施日	内容	参加団体数	参加者(人)
12月17日	・ボランティア団体の実践発表 ・意見交換会 ・情報提供	23	37

(5) 多様な主体との連携・協働の推進

公民館や福祉施設・事業所、企業、大学、NPO等と地域とのコーディネートに取り組み、多様な主体のそれぞれの強み・人材・資源を持ち寄った地域福祉活動の展開へとつなげた。

[地域と社会資源の協働による取組み（一例）]

- ・福祉施設・事業所・企業・大学等によるふれあいサロンや地域カフェでのプログラム支援
(例：健康講座、スマホの使い方相談会、終活・相続相談、メイク・マッサージなど)
- ・大学の協力で認知症高齢者への接し方を学んだガス検針員の見守り活動への参加 など

2. ボランティアによる社会参加の拡大

(1) ボランティアの参加や裾野の拡充

① シニア世代の活動支援事業（区シニア地域サポーター養成講座）

地域福祉活動の新たな担い手を養成する講座を、市及び区ボランティアセンターで開催し修了者を地域の福祉活動につないだ。

	内容	受講者(人)	活動開始者(人)
本部	知的障がいや発達障がいのある人を支援するボランティア入門講座	25	2
	知的障がいや発達障がいのある人を支援するボランティアフォローアップ講座	35	32
東	買い物支援について考える！ボランティア講座	11	7
博多	ボランティア活動の為のオンライン会議入門講座	11	2
中央	シニア地域サポーター養成講座(オンラインでつどってみよう)	10	1
南	南区精神保健福祉ボランティア講座	27	7
城南	シニアボランティア養成講座（ハガキ絵ではなれてもつながる）	15	2
早良	はなれてもつながる鉢植えボランティア養成講座	11	3
西	傾聴ボランティア養成講座	20	12
合計		165	68

② 介護支援ボランティア事業（福岡市委託事業）

高齢者（65歳以上）の社会参加、生きがいづくりや介護予防を促進するため、介護保険施設等でのボランティア活動を奨励した。また、活動により付与されたポイントを、換金または寄付に活用していただいた。

〔活動者の状況〕

(令和3年12月末現在)

個人登録者(人)	2,182
登録施設(箇所数)	513
令和3年中の活動者(ポイント所有者)	137(登録者の6.3%)

換金申請者	人数	金額
奨励金交換者	66人	244,400円
寄付者	36人	58,800円
合計	102人	303,200円

※1日1時間以上の活動=200ポイント=200円に換金。換金の上限は5,000円。

〔活動内容〕

(令和3年1月～令和3年12月累計)

活動種別	延活動者(人)	活動種別	延活動者(人)
レクリエーション・囲碁将棋	1,427	食事介助の補助	709
芸能	166	行事の手伝い	92
話し相手	1,011	入浴介助の補助	126
清掃・衣類整理	377	散歩・屋内移動・送迎の補助	27
美容	53	その他	93
合計			4,081

(2) 分野を超えた様々な人・団体等と協力した活動や連携モデルの開発

① 企業ボランティア活動支援事業【南】

企業の社会貢献や従業員のボランティア活動に関する相談に応じ、活動先の施設等のニーズを調査し、活動先を紹介する事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

(3) 新たな社会課題への対応と課題解決力の向上

① 認知症高齢者家族やすらぎ支援事業(福岡市委託事業)

認知症の方を在宅で介護している家庭に訪問し、本人の見守り・話し相手や家族の相談に応じるボランティア(やすらぎ支援員)の派遣及び養成・スキルアップに取り組んだ。

〔活動状況〕

実利用世帯数	訪問回数	実活動支援員数
9世帯	119回	8名

〔やすらぎ支援員の養成やスキルアップに係る研修〕※やすらぎ支援員の新規登録者数：15名

実施日	テーマ	参加者(人)
7月17日	第1回やすらぎ支援員フォローアップ研修	10
10月22日	やすらぎ支援員養成研修(認知症のある人と家族を支えるボランティア養成講座)	10
2月12日	第2回やすらぎ支援員フォローアップ研修	※中止

② 笑顔の10分コール【東】

新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控え、人と話す機会が減っていることを受け、「誰かに話を聴いてもらいたい」という声に応えるために、傾聴ボランティア笑みの会と東区社協が協働で、専用ダイヤルでボランティアが傾聴を行う事業を実施した。

〔実施日〕毎週金曜日 13:30～15:30 [件数] 28件

(4) 災害時のボランティアや支援活動を円滑に進めるための日頃からの備え

福岡市と協働し、災害支援団体やNPO等との連携体制づくり、災害ボランティアセンター（以下、「災害VC」）設置候補地の確保、災害VC設置・運営訓練、啓発活動やボランティアの養成などに取り組んだ。

① 災害ボランティアセンター運営の基盤づくり

i) 「福岡市災害ボランティアセンター設置に関する協定」締結

締結日	相手方	内容
7月27日	福岡市、学校法人都築学園	災害VC開設時の敷地の無償提供

ii) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練（福岡市・大学との共催）

実施日	会場	内容	対象	参加者（人）
10月4日	第一薬科大学（都築学園）	コロナ禍での災害VCの役割・業務内容の理解、	社協職員、 市・区役所職員、	38
3月7日	西南学院大学（西南学院）	現場での業務確認（訓練）、被災地事例の講話	大学職員、 災害支援団体	28

iii) 災害支援ボランティア団体等の登録制度の運用

〔登録団体数〕10団体（うち新規登録団体1団体）

② 災害ボランティアの裾野を広げる市民啓発や人材育成の取組み

i) 災害ボランティア講座（福岡市との共催）

実施日	内容	参加者（人）
3月9日	テーマ「知ろう！災害ボランティア」 災害支援団体（7団体）による活動発表を行い、災害時のニーズと活動の多様性を知るとともに、災害支援に関心のある個人や団体同士がつながる機会を作り、互いの交流を図った。	20

ii) 防災イベントへの参加

実施日	イベント名(会場)	内容	参加者（人）
11月2日 ～6日	市防災フェア (市役所西側ふれあい広場)	災害ボランティアや災害VCについて紹介するパネル展示ブースの出展	約3,000 ※市の発表
3月20日	防災の学校 (BRANCH福岡下原)	災害VC対応ミーティング (災害VCと地域の連携について考える)	会場周辺地域の自治協・自主防役員など 8

iii) 出前講座の実施

※福岡市市民局協力のもとで実施

実施日	依頼者・会場	内容	参加者
11月27日	公民館サークル「男の居場所」 (南区三宅公民館)	災害VCについて	9

3. 社会課題解決モデルの開発と拡充

(1) 地域の子どもプロジェクト（一部福岡市委託事業）

経済的に困窮している子育て中の世帯や、地域との関係が薄く孤立し、生きづらさを抱えている世帯等の課題解決に向け、子どもの居場所づくりの活動支援・基盤強化や専門職等との連携強化に取り組んだ。

① 「子ども食堂」等地域における子どもの居場所づくり支援の拡充

地域住民が主体となって実施する子どもやその親が安心して過ごせる居場所づくりや、多世代との交流をとおして生活習慣等を子どもが身につけ自立して生きる力を育む取組み、学生ボランティア等と連携した学習支援の取組み等を支援した。

〔区社協が支援した居場所づくり〕 附属明細書：P.1～2（別表1）参照

② 子どもの居場所を多様な主体が支え応援する仕組みづくりの推進

地域や学校、企業、団体、行政等と連携し、食事・食材の提供をとおして子どもを支える地域づくりに取り組んだ。

i) 子ども食堂等への食材提供の仕組みづくり

子ども食堂の多くが抱える食材調達の困難さへの支援策として、J A福岡市の直売所への出荷者の協力を得て、子ども食堂等への食材提供支援事業を実施した。

また、令和3年4月よりベジフルスタジアム活性化委員会と、令和4年3月よりJ A福岡市東部との食材提供支援事業を新たに開始した。

ii) 病院や福祉施設を会場とした子ども食堂等の開設支援【東】

病院や高齢者施設を会場とした子どもの居場所の開設支援を行った結果、2校区で新たに活動がスタートした。

校区	会場	名称	活動日
名島	福岡東ほばしらクリニック	ほばしらみんなのふね	第2・4木曜日 15:00～17:45
和白東	グループホームアソシエ和白	アソシエキッズわひがのWa	毎月最終土曜日 13:00～16:00

iii) 企業等からの寄贈品のコーディネート

企業等から物品や食料等を提供したいとの相談を受け、市内の子ども食堂との連絡調整窓口となり、寄贈のコーディネートを行った。

③ 関係機関・専門職との連携による子ども・子育て世帯のSOSの早期発見・早期対応

地域の実情に応じた運営を支援するため、団体同士の情報交換やスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」）との連携強化を目的とした交流・情報交換会を実施したほか、福岡市子どもの食と居場所づくり支援事業補助金の申請等の受付業務を含め団体の新設や運営の支援を行った。

また、関係機関と情報共有を行いながら、個別ケースの支援を行った。

〔食と居場所づくり団体の交流・情報交換会〕

区	実施日	参加団体数	参加者数（人）	主な内容
市域	1月31日	10	26	講話、活動報告、情報交換
東	3月24日	20	35	活動報告、各種団体紹介、情報交換

[SSWとCSWとの合同研修]

実施日	内容	参加者（人）
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・SSWとCSWによる支援事例や社協の取り組み・制度等 ・地域にある親子の居場所「ちやちやルーム」 ～地域、住民、特養、区社協、大学、SSWの協働～ ・情報交換 	60

(2) 買い物支援（一部福岡市委託事業）

① 地域が主体の買い物支援の推進【附属明細書：P.3～4（別表2）参照】

i) 買い物等支援推進員の配置

市社協地域福祉課に買い物等支援推進員を2名配置し、各区社協の生活支援コーディネーター及びCSWと連携して、地域が主体の買い物支援の取組みを進めた。

ii) 買い物支援ニーズの調査や個別相談会等の実施

市内の買い物支援ニーズを把握するため、地域団体に対して買い物支援に関する希望調査を行い、支援を希望する地域に対して地域団体向けの個別相談会を開催した。その後、買い物困難への課題認識や取組み希望等のアンケートを実施し、地域の特性やニーズに応じた持続可能な買い物等の生活支援の取組みの立上げ支援を行った。

iii) 有識者会議の開催

買い物支援実践者や有識者などからなる有識者会議を開催し、現状の取組みに対するアドバイスを受け、取組みの改善やさらなる活動の多様化を図った。

日時	主な協議内容
12月20日 ※オンライン開催	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物等の生活支援推進事業とその推進体制について ・個別相談会申込み地域への買い物支援推進員の対応状況と意見交換 ・買い物支援に関するアンケートについて ・東区での移動販売事例について
3月 ※書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域への買い物支援推進員の対応状況について ・東区の移動販売について（株式会社大輝） ・買い物支援アンケートの最終結果について ・買い物支援セミナーについて ・企業開拓・買い物支援福岡100PARTNERSの状況について ・買い物支援のノウハウの蓄積と共有について

iv) 地域が主体の買い物先への送迎事業の支援

香住丘校区（東区）が主体となって取り組んでいる買い物先への送迎事業に対し、持続的な取組みとなるよう車両の貸出やボランティアの確保等の支援を行った。

② ふれあいネットワークやふれあいサロンといった他の地域福祉活動との有機的な連携

買い物支援個別相談会や地域の会議等で、買い物支援の取組みにより、重層的な見守りや交流、外出の動機づけ、閉じこもり防止、介護予防といった複合的効果が生まれることを発信し、見守りや居場所づくりなどの他の地域福祉活動との連携について働きかけを行った。

③ 宅配に関する店舗情報の整理とICTの仕組みづくりの検討

宅配や移動販売を行う店舗等を一覧にした「買い物支援ガイドブック」を更新しホームページに掲載したほか、宅配を必要とする個人や買い物支援に関心がある企業に対し冊子を配布するなど周知を行った。また、高齢者にも使いやすいICTの仕組みづくりについて、携帯キャリアやスーパーとの話し合いの場を持ち、具体的な活用に向けて情報収集を行った。

④ 協力企業・事業所の開拓

福岡市における買い物困難の課題の共有と買い物支援協力企業の開拓を目的に、33の企業・団体等の相談対応・訪問を行い、「買い物支援の福岡100PARTNERS」の登録企業・団体の増加につなげた。(令和3年度7社増、令和4年3月末現在32社)

また、企業等の買い物支援に対する理解を促進するとともに、買い物支援の課題や継続性の工夫について情報発信し、買い物支援に協力する企業等の拡大に向けたセミナーを実施した。

[企業向け買い物支援セミナー]

実施日	内容	参加者 (人)
3月11日 ※オンライン開催	(報告)「福岡市の買い物支援のイマ」 (対談)「語らんね! 買い物支援の継続のための工夫・アイデア」 (グループワーク)「買い物支援の意見交換」	37

(3) 「終活」支援

① 人生の終末期に向けた準備や自己実現の支援 (一部福岡市委託事業)

終活に関する幅広いニーズに応じた情報提供等を行うため、終活全般の相談対応や情報提供を行う窓口を常設したほか、専門性の高い相談については弁護士等による予約制相談窓口を定期開設した。また終活に関する啓発や幅広いニーズに応えるため、出前講座を実施するとともに、福岡市からの委託を受け、終活の第一歩を考えるためのセミナーを開催した。

[終活サポートセンター 相談実績]

電話相談	899
来所相談 (うち予約制相談)	187 (89)
訪問等	49
合計	1,135

[終活出前講座] 附属明細書：P.4～5 (別表3) 参照

[終活応援セミナー] (福岡市委託事業)

	実施日 (期間)	内容 (テーマ)	形式	参加者数 (延べ)
第1回	7月15日～3月31日	終活のその前に	動画を オンライン配信	1,417
第2回	10月1日～10月31日 1月25日～3月31日	医療の立場から考える終活		766
第3回	3月1日	暮らしの中の終活	会場	92
合計				2,275

② 死後事務委任に関する事業

i) ずーっとあんしん安らか事業

死後事務を委任できる親族がいない高齢者等が安心して生活できるよう、本人との死後事務委任契約に基づき、定期的な見守りや入退院の手伝いなどを行うとともに、契約者が死亡した場合には、事前に預かった預託金で葬儀・家財処分等の死後事務を行った。

〔対応件数〕	(件)
相談	443
新規契約	7
現契約	81
入退院支援	20
自宅・病院への臨時対応	459
解約	8
(うち)葬儀・家財処分実施	(3)

ii) やすらかパック事業

「ずーっとあんしん安らか事業」の預託金の一括準備が困難な人等に対応できるよう、少額短期保険を活用した定額の利用料金の月払い制度により、死亡後の葬儀（直葬）、納骨（永代供養）、家財処分の費用等を保険金で対応し、死後事務を実施した。

〔対応件数〕	(件)
相談	400
新規契約	8
現契約	47
解約	3
(うち)葬儀・家財処分実施	(2)

(4) 社会福祉法人等とのさらなる連携・協働

① 事業連携の拡充

社会福祉法人等との協働による、買い物困難者支援や移動困難者支援、認知症高齢者等検索サポート体制整備、生活困窮者等への食品提供、居室清掃活動等の地域課題を解決するための取組みなど、地域で求められるサービス等について、社会福祉法人等に提案し、仕組みづくりを支援した。

i) 事業所ネットワークの支援

地域の課題解決に向け、福祉・介護・医療・障がい等の専門職や事業所によるネットワークの構築や運営を支援した。また、CSWを中心に、地域の実情やニーズに応じて事業所ネットワークと地域とのコーディネートに取り組んだ。

ア 障がいのある方との交流を深める「ふれあい広場」の開催【東】

障がい福祉サービス事業所を中心に、特別支援学校や高校、企業等との連携・協力によるイベントの開催に向けて、令和3年6月から8月にかけて実行委員会を開催したが、新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントの開催は見送った。

イ 福祉施設が行う地域貢献サポート事業【博多、南】

区	内容
博多	令和元年度に施設の提供メニュー冊子を作成し配布。令和3年度は、それを基に車いす貸出の紹介等を行った。
南	施設の提供メニュー冊子を窓口に設置し、区民への情報提供を行った。

ウ 事業所ネットワーク地域連携支援事業【早良】

区内の事業所ネットワークに対し、活動に必要な備品・消耗品購入費用を助成した。

〔助成箇所数・額〕 1団体・36,300円

エ 専門スタッフ派遣事業

ふれあいサロンや子育てサロン・サークル、校区社協の福祉講座等に対し、病院スタッフ、理学療法士、保育士、企業の出前講座などの専門スタッフの派遣をコーディネートし、プログラムの充実に向けた支援を行った。

ii) ふくおかライフレスキュー事業への参画による個別支援機能の強化

社会福祉法人による「地域における公益的な取組み」として、福岡県社会福祉法人経営者協議会と福岡県社協が主管する「ふくおかライフレスキュー事業」に参画した。

〔支援状況〕（令和3年4月～令和4年3月）

区	参加事業所数	地区連絡会回数	支援件数
東	7	0	4
博多	8	0	0
中央	10	1	0
南	5	1	1
城南	7	0	2
早良	12	6	1
西	14	1	4
合計	63	9	12

② 組織連携の拡充（一部委託事業）

種別協議会等の業界団体や関係機関等と連携し、福祉・介護の仕事の魅力を発信するプロジェクトに参加した。

また、介護に携わる外国人と地域住民等が交流する場づくりを支援し、慣れない生活で困りごとを抱える外国人を、地域の一員として見守り合える地域づくりを支援する「草の根交流プログラム」（福岡市委託事業）を実施した。

区	実施日	内容	参加者（人）
西	12月20日	社会福祉法人飯盛会で働くミャンマー人と金武校区社協ふれあいサロン「ぶどうの会」との交流 (母国の紹介、サロン活動への参加など)	外国人材：6 地域住民：15

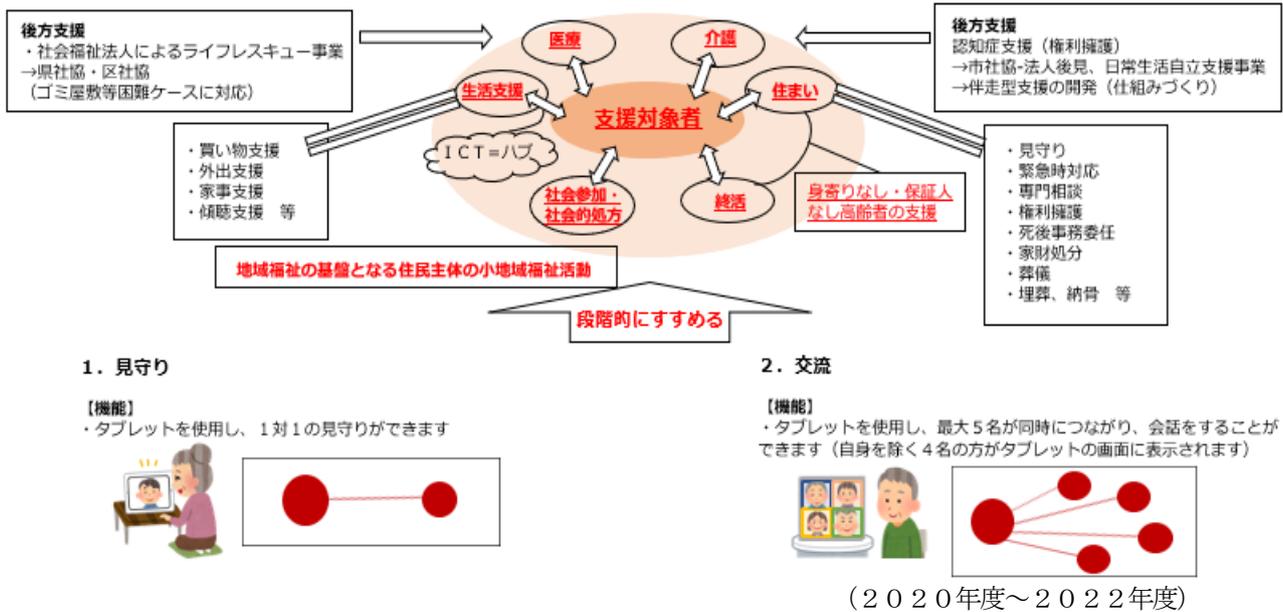
(5) コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証実験

新型コロナウイルスの感染者増加に伴い、本事業の運営にかかる重層的プラットフォームの中心を担う予定であったクリニックが、本事業のプランニングに参画することが困難になったため、非対面の交流を実現するツールとして「見守り・交流アプリ」を開発し、モデル校区（5校区）において住民説明会やアプリの試行機会を設定した。

なお、ケアリングコミュニティ(※)の段階的な形成を図るため、本事業の次のステージである「要援護者がサービスや活動につながりやすい、助けを求めやすい環境と支援者側のスムーズな連携を図る」ハブ機能ツールである「コールセンターアプリ」も併せて開発しており、今後試行予定である。

(※)ケアリングコミュニティ…福祉サービスを必要とする人を社会的に排除せず、地域社会を構成する一員として包摂し、日常生活圏域の中で支えていく機能を有しているコミュニティ。

2020年度 ニッセイ財団 高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成採択
「コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証事業」



(6) 「ファンドレイジング」を組み込んだ社会課題解決の仕組みづくり

地域共生社会の実現に向けて、制度の狭間の問題など、新たな課題の解決にチャレンジし、「あきらめない福祉」を目指す組織体制を維持・発展させるため、組織内部の環境整備や財源確保策の検討・実践等を行った。

① 多様な寄付の手法の開発と実践

毎月、定額をクレジットカード払いや口座引落としにより寄付する仕組み（マンスリーサポーター）を導入し、自主財源の確保に向け、ホームページ等の環境整備等を行った。

② ファンドレイジングの基盤整備

倫理面に配慮した受入体制を整備するため「倫理マニュアル」の策定を行った。また、継続的な寄付者を増やすためのアプローチ、寄付者との関係構築の強化、本会の取組みを可視化するため、情報を一元的に管理する「データベース」の導入やニュースレターの発行、活動報告会を行った。

③ 「SDGs実践プラットフォーム」の構築

今後の福祉政策の基本方針である「地域共生社会の実現」と、かつてないほどの企業の社会貢献意識の高まりを動機付けている「SDGs（持続可能な開発目標）」が目指す「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」とが軌を一にしていることを捉え、企業等との連携による社会課題解決モデルを考案し、協働を働きかけた。

4. 権利擁護事業の拡充

(1) 持続可能な日常生活自立支援事業の実施

認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な人たちが、地域で自立した生活が送れるよう、契約に基づき福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などを支援した。

また、判断能力が著しく低下した利用者については、本会による法人後見受任による対応のほか、専門職による成年後見等につないだ。

〔対応件数〕	(件)
新規相談受付	240
新規契約	64
累計契約 (平成12年1月～)	1,844

※事業開始からの累計解約件数1,485件 (死亡・施設入所・成年後見制度への移行等による)

〔現契約件数〕 359件 (件)

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他
131	72	154	2

(2) 利用者がメリットを感じられる成年後見制度の利用促進 (福岡市委託事業)

成年後見制度の利用促進を担う中核機関の設置に向けて、福岡市や家庭裁判所、専門職団体 (県弁護士会・県司法書士会・県社会福祉士会) などの関係機関を交え、中核機関の具体的な役割等について協議する場を設ける等の準備に携わり、令和3年10月1日に福岡市が開設した「福岡市成年後見推進センター」の事業を受託した。

① 福岡市成年後見制度利用促進体制整備に向けた中核機関設置検討会議

〔実施回数〕 5回

② 開設記念シンポジウムの開催

(人)

実施日	内容 (テーマ)	形式	参加者
9月23日	①基調講演 「成年後見制度の利用促進と地域福祉」	ライブ配信	68
	②パネルディスカッション 「誰もが安心できる成年後見制度の活用を目指して」 専門職より事例紹介 等	録画配信	705
合計 (延べ)			773

③ 成年後見制度に関する相談

〔延べ相談件数〕 360件 ※うち来所相談：52件

④ 成年後見相談会 (専門職による個別相談会)

〔実施回数〕 6回 〔相談件数〕 18件

⑤ 各種会議の開催 (件)

会議名	実施回数	審議事案件数
ケース検討会議(※1)	5	9
受任者調整会議(※2)	5	29

(※1) ケース検討会議…成年後見推進センターで相談を受けた案件のうち、成年後見制度の利用の可否や支援方針について専門職を交えて検討する会議。

(※2) 受任者調整会議…福岡市における市長申立案件及び成年後見推進センターで相談を受けた案件について、後見人等候補者(職種)の調整を行う会議。

⑥ 後見人等候補者の受任者調整

〔受任者調整件数〕 34件 (弁護士11件、司法書士9件、社会福祉士14件)

※上記のうち、弁護士と社会福祉士による複数後見が2件

⑦ 成年後見出前講座

〔実施件数〕 5件 【附属明細書：P.5 (別表4) 参照】

(3) 本人を中心とした関係機関の連携・チームによる支援

法人後見事業の実施にあたり、本人を中心としながら、本人の親族や福祉・医療・地域の関係者、後見人等がチームとして本人を見守り、本人の意思や状況を継続的に把握しながら後見業務を実践した。また、本人の権利擁護のために必要なことを多角的にとらえられるよう、チーム内での役割分担を適切に行った。

(4) 法人後見事業の推進と市民後見の充実

① 法人後見事業の推進

「日常生活自立支援事業」や「ずーっとあんしん安らか事業」等の契約者が、判断能力が低下した後でも安心した生活が送れるよう、「法人後見受任」等により、継続的な支援に取り組んだ。

[法人後見受任内訳件数] (件)

新規受任	累計受任	現受任			終了
9	104	38			66
		認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	
		34	3	1	

② 市民後見人養成事業の推進（福岡市委託事業）

これまでに養成した市民後見人養成研修修了者（市民参加型後見人）に、法人後見事業の実務に必要な知識や技術の習得を目的として、法人後見事業や日常生活自立支援事業の履行補助者として活動先を調整した。また、家庭裁判所に提出する書類作成業務等のOJT研修を行った。さらに、平成30年度から3年ぶりに「福岡市市民後見人養成研修」を実施し、市民の中から新たな市民参加型後見人候補者を養成した。コロナ禍により、動画配信を主としながら、月に1回来所またはオンラインで参加する演習や振り返り会を実施し、技能定着を図った。

[市民参加型後見人バンク登録者数] 22人

[市民参加型後見人活動者数] 16人

[福岡市市民後見人養成研修（全35科目）] 附属明細書：P.6（別表5）参照

5. 居住支援の推進と空家・空室の活用

(1) 「断らない相談窓口」の運営

高齢者・障がい者・社会的養護出身者・子育て世帯・低所得者などの住宅確保要配慮者を含め、誰もが安心して地域で生活を続けられる社会を実現するため、“住まい”と“日常生活支援”を一体的に提供し、安心して継続居住できるよう支援を行った。

(2) 「住まいサポートふくおか」による住替え支援の実施（福岡市居住支援協議会事業）

住替えに困っている高齢者や障がい者世帯を対象に、入居支援と入居後の生活支援のコーディネートを行った。また、民間賃貸住宅への入居に協力する不動産会社を「協力店」、入居中の様々な生活支援を担う団体を「支援団体」として登録し、「プラットフォーム」（事業運営の基盤となる仕組み）を運営した。

[登録・相談実績等]

協力店登録社数	支援団体登録数	相談受付数	賃貸借契約締結数
59社	14団体	357件	71件

[内数：障がい者の実績]

相談受付数	賃貸借契約締結数
92 件	19 件

[プラットフォーム連絡会議]

実施月	内容
12 月	事業進捗報告、情報共有、意見聴取等（※書面開催）

(3) 居住支援法人

住宅確保要配慮者（高齢者・障がい者を除く）を対象に、「法人後見事業」や「生活福祉資金貸付事業（転宅費）」等の市社協各事業間及び他の関係機関との連携を通じて、主に市内民間賃貸住宅への入居支援と入居後の生活支援をコーディネートした。

[相談実績等] 相談受付数：60 件、賃貸借契約締結数：4 件

(4) 制度の狭間を埋める社協ならではの分野横断的な実践

「住まい」を基点に、制度の狭間に取り残されている課題の発見・整理や狭間を埋める手段を検証するとともに、課題の解消に向けて「多分野協働のプラットフォーム」の形成を図り、福祉や住宅など複数分野に横串を刺す居住支援策を展開した。

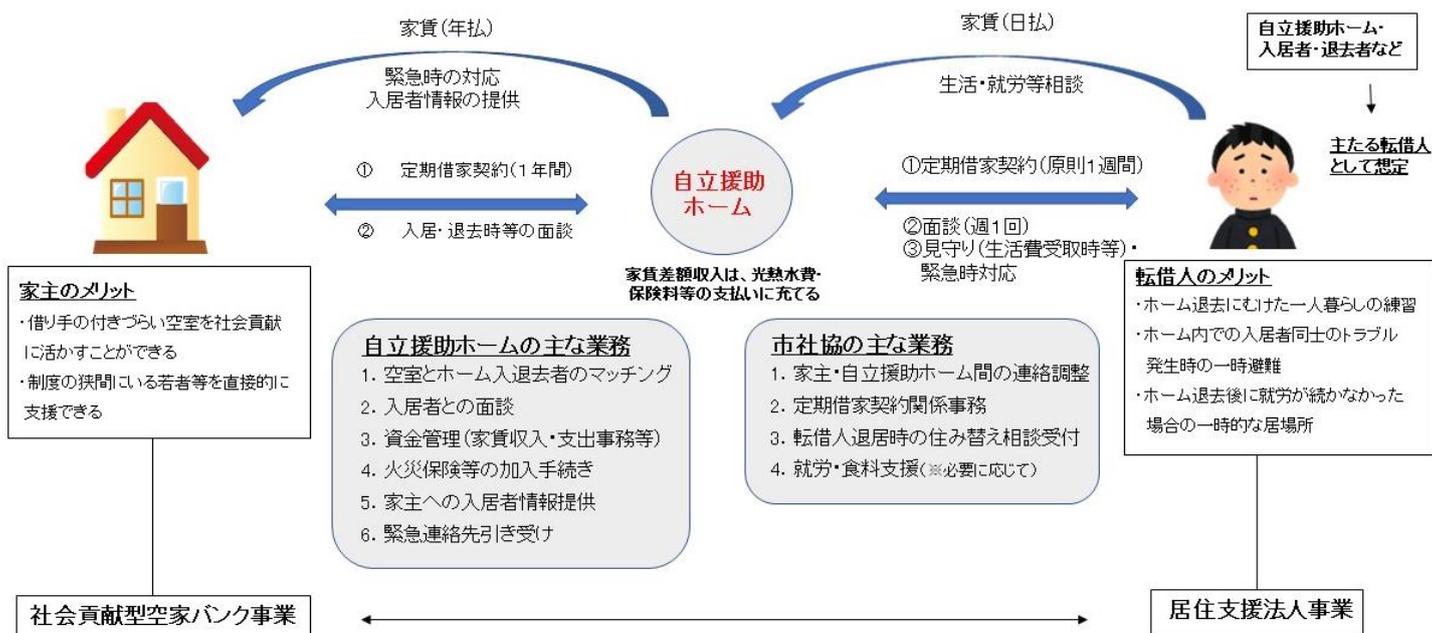


(5) 空家を福祉活用する「社会貢献型空家バンク」

建築士、弁護士、司法書士、税理士、宅建士等の専門家からなる一般社団法人古家空家調査連絡会との共同事業として、建築や税務・法務などの課題に専門家がワンストップで対応する仕組みを運営し、「増え続ける空家・空室」を活用して、地域カフェや子ども食堂、シェアハウスや福祉サービス事業所など、今までに創出した事例の活動維持、新たな活用ケースの創出に努めた。

[新たに開設した拠点]

名称	活用開始時期	校区	活用方法
ステップハウス	令和4年1月	城南区別府	自立援助ホーム退去後に就労を安定させる一時的な住居等



6. 地域福祉を推進するための基盤づくり

(1) 個人情報の保護と活用

① 「地域福祉活動における個人情報共有化に関する取扱いの指針」の活用

本会で作成した指針を使用し、個人情報の保護と活用に関する正しい理解を促し認識の共有化を図るとともに、地域福祉活動における個人情報取扱いのルールづくりに取り組むきっかけとなるよう、弁護士や大学教授による出前講座を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施には至らなかった。

(2) 福祉教育の推進

① 多様性を尊重する共生社会づくりに向けた福祉教育の推進

福祉教育を継続的に検討・推進していくプラットフォームづくりに向けた動きとして、全国福祉教育推進員研修への参加を本会以外の団体にも呼びかけ、福岡市老人福祉施設協議会1名、福岡市手をつなぐ育成会保護者会（障がい児・者の親の会）1名、本会職員3名の計5名で参加した。また、その他、コロナ禍の中での福祉教育プログラムとして、障がい当事者と協力し、オンラインを活用した学習プログラムの企画・実践にも取り組んだ。

② 関係団体との協働による福祉・介護人材確保に向けた啓発事業の推進

福祉業界の喫緊の課題である「福祉・介護人材の確保」に向け、介護・福祉業界の多種多様な団体がつながりその魅力を発信する「ふくおかカイゴつながるプロジェクト2021」（オンライン開催）に実行委員として参加した。当日は介護施設でのボランティア活動を紹介し、福祉・介護の魅力を発信した。

③ 動画による魅せる化事業【南】

校区社協などの地域活動を動画により各種研修で紹介し、コロナ禍で対面による情報交換の機会が減少する中でも、情報共有し地域活動を発信するツールとして活用した。

④ 校区インタビューの実施【城南】

中村学園大学の講義「社会福祉とボランティア」に協力し、学生が校区社協会長にインタビューし、校区社協の活動について質問する機会を設定した。

実施日	内容	参加者（人）
5月12日 12月13日	【事前学習】 「社会福祉協議会の活動について」	学生:121
7月14日 1月17日	【校区インタビュー（オンライン）】 「社会福祉とボランティア」	校区社協:4 学生:121 (うち1名のみ会長と対面実施)

7. 地域福祉ソーシャルワーカー（CSW）の機能強化

(1) 困難を抱えた人に寄り添いエンパワメントできる専門性を持つCSWの育成

職員の力量を高めるため、職員研修体系に基づき、CSWのスキルアップに重点を置いた「地域福祉専門職研修」を企画・実施するとともに、引き続き外部研修への積極的な参加勧奨や社会福祉士等の資格取得を支援し、職員の資質と専門性の向上に努めた。

(2) 様々な生きづらさや共通の問題を持つ方々が自主的につながり、相互に援助し合うセルフヘルプ（自助）グループへの支援

様々な生きづらさや共通の課題を持つ人のつながりや交流の機会を創出するとともに、共感のなかで悩みを打ち明け、問題解決のために経験や情報を分かち合い、相談活動や社会に理解を広める活動を行うセルフヘルプ（自助）グループの支援に取り組んだ。

① 認知症高齢者や家族を支える取組み

i) 家族介護者のつどいの実施【附属明細書：P.7（別表6）参照】

寝たきり高齢者や認知症高齢者、障がい者等を家庭で介護している家族を対象に、日頃の悩みや体験についての意見交換や介護者同士の交流、心身のリフレッシュを目的とした集いを14か所で実施した。

ii) 認知症高齢者の見守りの仕組みづくり

認知症高齢者の地域での生活を支えるため、福祉施設・事業所等と連携し、地域住民だけでは解決が難しい認知症高齢者への相談・対応や、福祉や介護に関する相談などを行うとともに、日頃の見守り活動や認知症高齢者声かけ訓練などでの連携を進め、地域全体で認知症高齢者を見守る仕組みづくりに努めた。

区	校区	内容
東	舞松原 美和台 香椎東 箱崎 香住丘	東区地域保健福祉課、事業所ネットワークと共同で実施。事業所のスタッフが認知症役となり、認知症の方への声掛け体験を行った。 内容をパッケージ化することで、各校区へ展開。8つの校区で開催を予定していたが、コロナ禍のため3校区が開催を見送った。
博多	堅粕	行方不明高齢者捜索活動について、地域役員にヒアリングを行い、事業が地域の実情に合っていないため、見直しをする必要があることを確認した。
	板付	認知症で行方不明となるおそれのある人を事前に登録し、行方不明者発生時に協力者の住民や会社などが捜索する「ちょっと一声、見守り隊」の仕組みづくりを支援した。

区	校区	内容
	板付北	校区内にあるタクシー会社と校区自治協が協定を結び、認知症サポーター養成講座を受けたタクシー運転手が道に迷った高齢者に声かけ、自宅まで送り届けた後、会館へ連絡をする「いまだこシステム」の仕組みづくりを支援した。協力者を増やすために、協力者募集用のチラシを作成して校区内の店舗等に協力を呼び掛けている。
	東光	行方不明高齢者検索システムについて、ふれあいネットワークの代表者にアンケート調査を行い、必要性があることを確認した。
中央	平尾	認知症をささえるやさしいまちづくり講座を計画していたが、まん延防止等重点措置延長のため、中止となった。
南	弥永	認知症で現在地や目的地などがわからなくなっている高齢者等を見つけた時に、適切に声をかけられるようにする訓練を実施した。商店街におられた一般の方に、高齢者役へ声かけをしてもらった。
西	周船寺	新型コロナウイルスの感染拡大防止のため自治会ごとに小規模で訓練を行い、避難行動要支援者名簿を活用した要支援者避難訓練と併せて認知症行方不明者検索・声かけ訓練を行った。

(3) 多様な相談機関・専門職等との連携強化

① 包括的な支援の実施に向けた体制構築モデル事業（福岡市委託事業）

市社協本部に個別支援型のCSW（地域共生推進員）を3名配置し、分野ごとの制度では対応が難しい課題を、相談機関や地域資源等と連携し、アウトリーチ支援により解決するモデル事業に取り組んだ。

また、制度の狭間の課題を解決する仕組みの必要性を共有するため、企業や大学、社会福祉法人、NPO法人など多様な主体が参加するシンポジウムを開催した。

[地域共生シンポジウム]

実施日	内容	参加者(人)
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 「社会的孤立を背景として生じる社会課題」 ・グループワーク 分野横断的な「協働」によって、複合的な課題を抱えた世帯へどのような支援が必要か検討 	23

② 生活困窮者の課題解決に向けた関係機関との連携、支援

生活福祉資金の相談時に、離職者を対象とした総合支援資金等を希望する人には、福岡市生活自立支援センターの自立相談支援事業の利用をすすめるとともに、該当する貸付けについて受付を行った。令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、収入が減少・途絶した世帯に対して、緊急小口資金(特例貸付)並びに総合支援資金・生活支援費(特例貸付)の相談並びに申込の受付を行った。

[福岡市生活自立支援センターとの相談連携件数]

区分	件数
① 通常枠	8
② 特例貸付関係(総合支援資金延長貸付・再貸付)	13,820
合計	13,828

〔新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な資金の特例貸付（福岡市社協受付分）〕

資金種類	貸付決定額等	
	件数	金額(円)
緊急小口資金	10,507	2,054,184,000
総合支援資金(初回・延長貸付)	10,895	5,671,902,000
総合支援資金(再貸付)	7,739	4,026,860,000
合計	29,141	11,752,946,000

また、フードバンク福岡や企業等から提供された食品を、生活困窮者の支援に活用した。
〔提供された食品数〕

提供を受けた団体等	食品数（食・個）
フードバンク福岡	6,050
日本非常食推進機構	732
その他企業等	950
合計	7,732

③ 地域包括支援センターの運営による個別支援機能の強化

地域において、地域包括支援センターの個別支援と社会福祉協議会の地域支援が融合するような実践を目指し、取組みを進めた。

i) 地域包括支援センター事業業務

総合相談・支援業務実績（令和3年4月～令和4年3月）

実件数		518件	【参考】市センター平均 463件
延べ件数		2,839件	2,991件
相談内訳	保健	327件	463件
	福祉	177件	124件
	医療	194件	272件
	介護	1,466件	1,601件
	権利擁護	363件	248件
	その他	312件	283件

ii) 介護予防支援事業業務

介護予防給付請求件数（令和3年4月～令和4年3月）

延べ 3,327件（月平均 277件）

④ 「生活上のよろず相談会」の実施【早良】

早良区に居住又は通勤・通学している人を対象に、相続・遺言・生前贈与、成年後見制度、年金・社会保険、離婚、債務整理、交通事故等生活上の悩みに関する相談会を実施した。

（相談は、弁護士・行政書士・社会保険労務士が対応。）

〔開催日時〕 毎週火曜日 16時～17時30分（祝日、お盆、年末年始除く）

〔場所〕 早良区社協事務所（※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため電話相談にて対応）

〔相談件数〕 5件

①相談内容

相続	2件
社会保険	1件
住宅	1件
その他(近隣トラブル)	1件

②紹介経路

ふくしのまち福岡	3件
その他(区役所等)	2件

(4) アウトリーチによる相談支援に対応できるCSWの人材配置

積極的に地域へ出向き、地域のボランティア等を介して、制度の狭間の課題を抱える人や支援が必要な人を把握する「アウトリーチ」による相談支援を進めるCSWを配置するとともに、各区社協に適切なCSW配置数を実現できるよう、関連する委託事業や人件費を含めた民間の実証実験事業に積極的に応募するなどして、組織的にCSWの人員配置の強化に努めた。

① 生活支援コーディネーター業務(福岡市委託事業)の実施によるCSWの機能強化

福岡市が地域包括ケア推進のため実施している「生活支援体制整備事業」の委託を受け、各区1名の生活支援コーディネーターを配置するとともに、その業務・経験を通して区社協のCSWのスキルアップと機能強化を図った。

地域支援のノウハウや地縁組織・ボランティアとの関係性を活かし、地域課題の把握や事業者等への参画を働きかけ、包括圏域や区域における社会資源の創出を支援するとともに、特に買い物支援や地域包括支援センターとの連携を強化し、高齢者の地域での自立した生活を支える体制の構築を進めた。

多様な取組みの主な事例	主な支援内容
① コロナ禍の孤立防止の取組み	コロナ禍で外出・会話の機会が少なくなった方の孤立感を軽減するため、傾聴ボランティアグループと区社協との協働で、10分間電話で話し相手をする取組み(毎週1回)を開始。コロナ禍で活動の制約を受けるボランティアグループの新たな活動の場の創出にもつながった。
② 自治会別の地域福祉研修会の開催	コロナ禍で大人数が集まる研修ができない中、区役所・地域包括支援センターと連携し、自治会ごとにより実践的な研修と意見交換を実施。校区社協会長と生活支援コーディネーターが全自治会を回り、主に見守り活動の現状や避難行動要支援者名簿について意見交換し、各自治会の現状や課題を把握した。
③ 見守りの新たな担い手の発掘	「事業所ネットワーク」と連携し、事業所が本業の送迎等で地域を回る際に気になる高齢者を発見した場合、地域の活動者と情報共有することを提案し、見守り活動の充実と地域活動者の負担軽減を支援した。
④ 見守り活動の機能充実に向けた動き	生活支援コーディネーターと校区社協関係者が各町のふれあいネットワーク班会議に参加し、見守り活動の目的・方法の共有と体制再構築を支援した。避難行動要支援者名簿を活用し、災害時に備えた平常時の見守り活動について検討するなど活動の活性化につながった町内もあった。
⑤ 産学官民による見守りの発展	大学による研修を受講したガス検針員等が、高齢者の異変に気付いた際、速やかに地域や関係機関と連携できる体制構築を支援し、実施校区以外にも実践が広がった。また、地域との顔の見える関係づくりの促進のため、検針員等による校区内サロンの定期訪問を調整した。
⑥ 行方不明高齢者を地域で見つける「いまだこシステム」	認知症高齢者等の情報を事前に事務局(地域のクリニック)に登録し、行方不明者が発生した際、登録情報を検索協力者(地域の役員や企業等)や警察に提供し、校区全体で検索・早期発見を行う体制構築を目指し、マニュアル作成や協力者依頼のチラシ作成等の支援を行った。
⑦ 地域資源を活かした介護者のケア	地域の寺院を活用し、区民を対象に家族介護者同士の交流の場を開催。近隣の薬局や福祉事業所の専門職の協力も得て、日頃から相談できるつながりづくりに取り組んだ。これを機に、コロナ禍で新たな会場を探していた校区内サロンと寺院をつなぎ、会場の確保を支援した。

事業項目

※下線を引いた項目は「重点項目」の再掲

1. 住民主体の小地域福祉活動の推進

- (1) ふれあいネットワークによる平常時の見守りと災害時の避難支援との連動の強化
- (2) ふれあいサロンをはじめとする居場所づくりの強化
- (3) 「校区福祉のまちづくりプラン」策定の推進
- (4) 小地域での生活支援ボランティア活動の推進
- (5) 多様な主体との連携・協働の推進
- (6) 校区社会福祉協議会強化への支援

① 校区社協の運営及び事業に対する助成・支援【附属明細書：P.8（別表7）参照】

（共同募金校区社協助成金、共同募金地区福祉事業助成金、賛助会費交付金）

区社協と協働し、校区の特性や実情に即した福祉活動を推進するために共同募金配分金を財源として、校区社協の事業運営を支援した。

〔助成額〕 61,509,807円

② ふれあいランチへの助成・支援

食事の準備が困難な高齢者や障がい者などに、地域住民がボランティアで週1～2回、食事を配ることにより、安否確認、各種相談等を行って交流を深める活動を区社協とともに支援した。

また、福岡市地域保健福祉振興基金等を財源として、活動費を助成した。

〔実施校区〕 東区美和台校区、南区若久校区 〔助成額〕 480,000円

③ 校区社協広報紙の発行に対する助成

〔実施校区数〕 125校区 〔助成額〕 4,831,986円

④ 校区社協への研修バス等交流事業への助成

交流・親睦や地域福祉に関する理解を深めることを目的としたバスハイクのバス借上げ料や研修会の開催費用を助成した。

〔助成校区数〕 東：8校区（参加者数198人）、早良：11校区（476人）

⑤ 校区社協未設立校区に対する設立支援

区	校区	内容
東	照葉	・令和3年4月頃から公民館長を中心として校区社協設立の話が進められ、中心メンバーで勉強会などの準備を重ね、令和4年2月26日に設立となった。
	照葉北	・公民館、自治協、照葉北校区内の福祉事業所等による圏域連携会議にて、校区社協の説明を行った。
中央	警固	・校区で開催された認知症サポーター養成講座において区社協事業等の情報提供を行った。

(7) 安心情報キット、緊急時連絡カードの配付

かかりつけの病院や緊急連絡先等の情報を書いたカードを筒に入れて冷蔵庫で保管することができるキットを、一人暮らしの高齢者や障がい者等の地域で見守りが必要な人に配付した。令和3年10月には、株式会社九電工より、キット3,000個の寄贈を受けた。

また、見守り活動のツールとしても活用できる緊急時連絡カードを配布した。

〔安心情報キット配付者数〕 1,993人

〔緊急時連絡カード配布数〕 15,031枚

① 救急搬送時医療情報シートの普及促進【南】

平成30年度から医師会と連携し、安心情報キットに救急搬送医療情報シートを封入する取組みへの協力を引き続き行った。

(8) 民生委員児童委員協議会との連携

共に地域福祉を推進する民生委員の活動を支援するため、民生委員児童委員協議会への活動費を助成した。

〔補助金額〕 7, 191, 600円

(9) レクリエーション用具の貸出【東、博多、南、城南、西】

地域活動等で活用できるレクリエーション用具の貸出を行った。

(10) 地域カフェ支援事業【南】

施設と住民が協働し、施設職員や利用者、地域高齢者・住民、ボランティアが垣根を作らず、誰もが気軽に立ち寄り、お茶などを飲みながら、会話や交流できる居場所（地域カフェ）を実施する団体に対して助成した。

〔支援状況〕 11校区21か所（参加者数3, 476人）

2. ボランティアによる社会参加の拡大

(1) ボランティアの参加や裾野の拡充

▶ その他シニア世代のボランティア活性化の取組み

○講座・交流会の実施

実施日	内容	受講者(人)
7月3日・10日・17日	傾聴ボランティア養成講座	43
10月9日・16日・23日	傾聴スキルアップ講座	25

○イベントへの参加

実施日	内容
2月24日	福岡地区“70歳現役を目指す”高齢者のためのしごと・ボランティア合同説明会
3月11日	アラカンフェスタ

▶ ボランティアセンターの取組みの推進

ボランティア活動における課題解決力の向上や活動の裾野を広げる取組みを進めた。
〔グループ登録数の推移〕

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
グループ数	229	218	206

(2) 分野を超えた様々な人・団体等と協力した活動や連携モデルの開発

(3) 新たな社会課題への対応と課題解決力の向上

(4) 災害時のボランティアや支援活動を円滑に進めるための日頃からの備え

(5) ボランティアのコーディネート及び活動情報の収集・発信

公的なサービスでは対応できない多様な生活課題を抱える人たちを支援するため、ボランティアをはじめ、関係機関へ働きかけるとともに、ボランティア活動希望者が実際の活動に結び付くよう支援した。

① ボランティアコーディネーション事業

i) 個人ボランティア活動相談・登録 (件)

㊤活動相談(合計)	㊦対応状況	相談のみ	マッチング率(㊦÷㊤)
429	392 ※詳細(登録173、活動先紹介302、その他57)	37	91.4%

※㊦の詳細については、複数の活動先を紹介した場合、それぞれ1件とカウント

ii) ボランティア依頼 (件)

㊤依頼合計	㊦対応	延べ対応ボランティア数	マッチング率(㊦÷㊤)
524	417	915	79.6%

〔依頼内容〕

内容	件数	内容	件数	内容	件数
外出付き添い	175	遊び相手	24	その他	58
話し相手	48	点訳	79		
日常活動援助	40	家事援助	13		
行事援助	50	朗読	23		
技術・学習指導	12	託児	2		
合計					524

iii) 登録ボランティア内訳

	令和3年度新規登録(人)	現登録(人)
個人ボランティア	173	1,015
ボランティアグループ	0団体・0	206団体・5,264

② 施設等ボランティア情報の周知

市内の福祉施設で募集しているボランティアの情報をまとめた「施設ボランティア募集情報」を配布した。

③ ボランティア情報紙「風」発行

ボランティアセンターに寄せられたボランティア募集やイベント・講座情報、グループ情報などを掲載した情報紙を発行した。

〔発行回数〕4回（3か月に1回発行）

〔発行部数〕約2,000部/回

④ 芸能グループ情報冊子発行

ボランティアセンターで把握している芸能グループの情報をまとめた冊子を作成した。

(6) 各種ボランティア講座の充実

多様な生活課題に応えるため、一定の知識や技術を必要とするボランティアを、各種講座を通じて養成した。

① 技術ボランティア養成講座

主に、視覚障がい者を対象とした技術を要する活動に参加するボランティアを養成するための講座を開催した。

実施日	講座内容	受講者(人)
10月7日～12月2日(全8回)	音訳	25
10月23日～10月25日(全3回)	音訳(フォローアップ)	18
11月6日・13日・27日	視覚障がい者外出支援	21
11月20日	視覚障がい者外出支援(フォローアップ)	29
※中止	テキスト訳	-
※中止	パソコン点訳体験	-
12月3日	点訳(フォローアップ)	76

② 課題別ボランティア養成講座

公的サービスでは対応することが難しい、多様な生活課題を抱える人の支援を行うボランティアを養成した。

実施日	講座内容	受講者(人)
11月13日・20日・27日	高齢者外出支援	15

③ 校区社協や公民館との共催による地域でのボランティア養成講座の開催

地域の支え合いや地域の課題解決に向けて、地域で活動するボランティアを養成するため、関係機関や関係団体と協力して養成講座を実施した。

区	延べ実施回数 (回)	延べ参加者数 (人)	主な内容
東	1	14	地域福祉活動に取り組む意欲を高める講座
博多	1	10	オンライン講座
中央	6	145	子育てサロンVo養成講座、見守りマップの更新、認知症サポーター養成講座
南	4	91	認知症サポーター養成講座、ボランティア研修
城南	1	20	孤立死を考える見守りボランティア向け福祉講演会
早良	1	21	事例紹介、西部ガス出前講座
西	4	87	認知症サポーター養成講座、高齢者との接し方講座

(7) 登録ボランティアグループへの支援

登録ボランティアグループの活動の推進・充実を図るため、状況の把握、課題解決の支援を行った。

① 登録ボランティアグループの状況調査

「センター登録ボランティアグループ一覧」を作成した。

② 活動拠点・資材・情報の提供

ボランティアルームなどの活動室、印刷室、オンラインツール等の貸出を行った。

〔件数〕 1, 589件 (延べ6, 810人利用)

③ 福岡市ボランティア連絡協議会への支援

社会福祉の推進を目的とした自主的な活動を支援するため、福岡市ボランティア連絡協議会へ活動費を助成した。

〔助成額〕 100,000円

④ 芸能ボランティアグループ情報の動画配信

福祉施設などで活動している芸能ボランティアグループの活動内容を知らせるため、64団体の芸能グループの動画を配信した。

⑤ ボランティアグループ向け研修

ボランティアグループ向けに「学びあい講座」として、ボランティアの原点について考えることを目的にボランティア連絡協議会との共催で実施した。

〔実施日〕 3月21日 〔参加者数〕 37名

(8) 音楽レクリエーションボランティア支援事業【南】

音楽レクリエーションボランティアグループに南区のふれあいサロン等で活動してもらうため、楽器等の貸出や破損した際の楽器買替え等を行った。

〔貸出件数〕 4件

(9) ボランティア交流の日事業【中央、早良】

切手整理によるボランティアの交流会を実施し、企業や学生ボランティア、他区在住のボランティアの受入れも行った。

区	実施日
中央	毎月 15 日 (閉所日の場合は、直後の開所日) 14:00~15:00、15:00~16:00 の二部制
早良	毎月 8 日 (閉所日の場合は直後の開所日) 14:00~15:00

3. 社会課題解決モデルの開発と拡充

(1) 地域の子どもプロジェクト (一部福岡市委託事業)

(2) 買い物支援 (一部福岡市委託事業)

(3) 「終活」支援

(4) 社会福祉法人等とのさらなる連携・協働

(5) コロナ禍を乗り越え、地域共生社会の実現を目指す実証実験

(6) 「ファンドレイジング」を組み込んだ社会課題解決の仕組みづくり

(7) ファミリー・サポート・センター事業の推進（福岡市委託事業）

子育て家庭が地域の中で孤立することなく、安心して子育てができるよう、地域において子育てを「応援して欲しい」「応援したい」人を組織化し、会員制による相互援助活動を広めた。

〔会員登録状況〕

(人)

依頼会員	提供会員	両方会員	合計数
4,642	1,066	549	6,257

〔活動内容及び回数〕

(回)

	活動内容	回数
1	子どもの習い事等の場合の援助	2,345
2	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	1,480
3	保育所・幼稚園の迎え	1,394
4	保護者等の買い物等外出の場合の援助	1,078
5	保育所・学校等休み時の援助	953
6	(その他)保育所・幼稚園の送り 保護者等の臨時的就労の場合の援助 学童保育の迎え及び帰宅後の預かり 保育所・幼稚園の送り及び登園前の預かり 等	3,610
合計		10,860

〔講習会・交流会等の実施〕

- ・ 依頼会員登録講習（支部：月～金曜日、本部：第3土曜日）
- ・ 提供・両方会員養成講習会（5回、受講者延べ328人）※第1回の2、3日目は中止
- ・ フォローアップ講座（2回、受講者延べ19人）
- ・ 7支部合同会員交流会（7回、参加者99人）
- ・ 提供会員・両方会員懇談会（13回、参加者延べ144人）※1回中止

(8) 子育てサロン・サークルの支援

子育てサロン・サークルの活動内容の充実や、子育て相談の場を設けることを目的とした、子育てサロン・サークルへの保育士派遣事業や講師派遣事業を実施した。

〔コーディネート件数〕博多：1件、早良：9件

➤ 子育てサロンへの助成【南】

〔助成状況〕助成団体数20団体（助成金額200,000円）

(9) 「子育てリフレッシュ事業」の実施【西】

区	実施日	内容	参加者（人）
西	12月17日	子育て中の保護者を対象に、骨盤ストレッチ等の運動や交流により心身のリフレッシュを図る託児付きの講座を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため人数制限をして開催した。	保護者 6 託児 6

4. 権利擁護事業の拡充

(1) 持続可能な日常生活自立支援事業の実施

(2) 利用者がメリットを感じられる成年後見制度の利用促進（福岡市委託事業）

(3) 本人を中心とした関係機関の連携・チームによる支援

(4) 法人後見事業の推進と市民後見の充実

(5) 信託制度を活用した新たな権利擁護の仕組みづくりの検討

生命保険信託と独自に開発する「身上保護」サービスや「友人的伴走支援」の仕組みを組み合わせることにより、「成年後見制度」や「遺言」といった既存の制度ではカバーしきれない、

障がい者の「親亡き後」や、いわゆる「8050」問題のニーズに対応する、新たな仕組みづくりの検討を行った。

5. 居住支援の推進と空家・空室の活用

- (1) 「断らない相談窓口」の運営
- (2) 「住まいサポートふくおか」による住替え支援の実施（福岡市居住支援協議会事業）
- (3) 居住支援法人
- (4) 制度の狭間を埋める社協ならではの分野横断的な実践
- (5) 空家を福祉活用する「社会貢献型空家バンク」

6. 地域福祉を推進するための基盤づくり

- (1) 個人情報の保護と活用
- (2) 福祉教育の推進（福祉学習教材の提供、出前福祉講座）

学校や、地域、市民、企業に対し、福祉やボランティア活動についての学習の機会を提供し、理解と関心を高め、福祉活動への参加の動機付けを図るため、障がい者疑似体験等を行う出前福祉講座を実施した。

※令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、高齢者疑似体験は中止した。

区	件数	主な内容	参加者数（人）
本部	16	車いす体験、アイマスク体験、講話 等	627
東	2	車いす体験、講話	170
博多	3	車いす体験、ユニバーサルデザインとバリアフリー学習	205
中央	1	アイマスク体験の支援(アイマスク、点字ブロックの貸出)	160
南	5	車いす体験、アイマスク体験、ユニバーサルデザインに関する講話、福祉に関する講話	365
城南	1	点字体験	120
早良	7	車いす体験、視覚障がい者による講話、ユニバーサルデザインに関する講話	746
西	11	車いす体験、認知症キッズサポーター養成講座、認知症・ユマニチュード講座、高齢者の特性について出前講座	700

(3) 広報紙やホームページ等を通じた情報発信

① 広報紙「ふくしのまち福岡」の発行

福祉に関する様々な情報や本会事業、その他福祉やボランティアに関する情報を広く市民に紹介し、福祉に対する意識の向上を図るため、広報紙を発行・配布した。

〔発行回数〕 3回（第124号・第125号・126号）※市版及び7区版を発行

〔発行部数〕 349, 300部（第124号）

347, 240部（第125号）

367, 100部（第126号）

② 社協ワーカーだよりの発行

校区社協や民生委員をはじめ、地域福祉活動に携わる人や関係機関に対し、月1回「社協ワーカーだより」を発行し、市・区社協の職員（「社協ワーカー」）の役割を啓発するとともに、本会の活動内容の情報を発信した。

③ ホームページの運営

ホームページを全面リニューアルし、本会が行う福祉活動や幅広い福祉の情報を周知するため、最新情報の発信を行った。

(4) 福祉のまちづくり推進大会の開催

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、大会の開催は中止し、事務局から受彰者に表彰状・記念品を発送した。

(5) 市民福祉プラザの運営

① 貸室等運営【附属明細書：P.9（別表8）参照】

市民福祉プラザの各種施設を福祉関係団体や障がい者、高齢者等の市民が十分活用できるように管理運営を行った。

〔施設全体の利用延人数〕 130, 140人

② 障がい者作品展、利用団体写真展等の実施

i) 障がい者作品展

障がい者福祉の啓発を図るため、障がい者週間にあわせてレストラン内及びロビーで福祉団体・施設から寄せられた絵画や写真などを展示した。

〔実施日〕 12月1日～27日 〔参加者数〕 6施設・団体、44作品

ii) デジカメ写真入門講座 in ふくふくプラザ

高齢者の社会参加を図ることを目的に、趣味として写真を始めたい人を掘り起こし、写真の知識や楽しさを学ぶデジカメ写真入門講座を開催した。

〔実施日〕 2回（4日間） ①7月21日・28日、②10月22日・29日

〔参加者数〕 延べ38人

iii) バリアフリー映画上映会

視覚や聴覚に障がいがある人もない人も共に映画を楽しむことができる音声や字幕のついた映画の上映会を開催した。

〔実施日〕 11月23日 〔参加者数〕 75人

③ プラザ相談員研修会の開催

実施日	内容	受講者(人)
10月5日	「相談面接と面接記録の書き方」	36

④ とうにん・ふくふくコンサートの開催

ふくふくホールの「音響の良さ」を十分に活用し、「どなたでも良質な音楽を楽しめる」音楽会を、当仁校区自治協議会、当仁公民館、学校等と共催して開催した。

〔実施日〕 3回5公演 ①11月27日、②1月16日、③3月28日

〔参加者数〕 延べ780人

⑤ プラザ利用団体、地域団体等との懇談会

入居団体やプラザ利用団体と、施設運営に関する意見交換を行い、意見を踏まえてプラザ運営の改善を行った。また、地域団体との懇談会を開催し、地域とプラザの情報を共有し共通の問題等について協議した。

- ・プラザ入居団体連絡会（年6回）
- ・当仁校区自治協議会連絡会への参加（年7回）
- ・団体連絡室利用団体との懇談会（年1回 参加5団体）

(6) 市民福祉講演会の開催

「子ども・若者」「高齢者・認知症」問題等、市民に関心が高いテーマを選定し、市民へ福祉の啓発と福祉事業への理解を図ることを目的に講演会を開催した。

実施日	内容等	参加者(人)
6月11日	「障がいを社会の価値に変える」～いま求められるユニバーサルマナー～ 講師：(株)ミライロ 日本ユニバーサルマナー会長 岸田ひろ実 氏	※中止
8月6日	「講談で学ぶ、成年後見制度」～安心して老後を迎えるために～ 講師：講談師 神田織音 氏	※中止

実施日	内容等	参加者(人)
10月13日	「今を生きる子供たちに伝えたい」～親として・大人として・地域として～ 講師：熊丸みつ子氏	87

(7) 福祉図書・情報室の運営

① 利用状況

内容	図書	ビデオ・DVD	インターネット貸出延長
蔵書数	31,109冊	751本	
利用状況(貸出数)	7,974冊	446本	726件

〔利用者数〕 延べ20,727人(新規登録者数202人)

〔レファレンス数(調べもの相談)〕 427件

② 対面朗読サービス

視覚障がい者などが情報を得る方法の一つとして、福祉図書・情報室で登録ボランティアによる「対面朗読サービス」を提供した。

〔利用者数〕 延べ30人

※新型コロナウイルスの感染拡大により、5月12日～6月20日、8月9日～9月30日は休室

(8) 福祉バス運営事業(福岡市委託事業)

福岡市からの委託を受け、福祉バスの利用申込受付、旅行代理店への配車予約等を行うものであるが、令和3年度は令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向け、運行を休止した。

(9) 社会福祉事業従事者研修

福祉に関する知識や技術、組織の中での役割等についての理解を深めるため、民間社会福祉施設従事者や社会福祉関係団体職員を対象とした研修を実施した。

研修対象	研修事業名	受講者(人)	
民間社会福祉施設従事者 社会福祉関係団体職員等	新任職員研修Ⅰ【社会人1年目研修】(2日間)	37	
	〃 Ⅱ【2～3年目研修】(2日間)	37	
	中堅職員研修(2日間)	34	
	リーダー研修(指導的職員研修)(2日間)	60	
	メンタルヘルスケア研修(一般職コース)	22	
	メンタルヘルスケア研修(管理職コース)	39	
	相談援助面接技術研修	49	
	救急法研修	第1回	37
		第2回	36
		第3回	35
		第4回	33
	福祉レクリエーション研修 (※第1回、第2回、第4回は中止)	第3回	29
	接遇研修	第1回	35
		第2回	34
人権研修		32	
合計		549	

(10) 民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業【附属明細書：P.10～11（別表9）参照】

民間社会福祉施設などに従事する職員の福利厚生を推進を目的に事業を実施した。

加入契約法人数	施設数	加入職員数(人)
132	181	5,208

(11) 保育士人材確保事業

福岡市内の保育士人材の確保を目的に、保育士が育児休業や産後休暇から復帰する際や、保育士資格を有するが保育士として勤務していない人（潜在保育士）への再就職支援のための貸付事業を実施した。

① 未就学児がいる保育士の子どもの保育料の一部貸付事業

貸付決定件数	貸付決定額(円)	貸付金送金額(円)
86	17,624,975	16,587,975

② 就職準備金貸付事業

貸付決定件数	貸付決定額(円)	貸付金送金額(円)
40	7,864,430	7,864,430

(12) ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

「高等職業訓練促進給付金」を活用して養成機関に在学し、将来福岡県内において取得した資格を活かして就職しようとする「ひとり親家庭の親」を支援するため入学準備金や就職準備金の貸付けを行った。

貸付種類	貸付決定件数	貸付決定額(円)	貸付金送金額(円)
入学準備金	21	10,500,000	10,500,000
就職準備金	21	4,200,000	4,400,000

(13) 社会福祉士相談援助実習受入

福祉分野で活躍する人材を育成するため、社会福祉士資格取得を目指す実習生の受入れを行った。

〔期間〕 8月16日～9月16日 24日間

〔人数等〕 3人（西南学院大学、筑紫女学園大学、九州保健福祉大学）

(14) 施設整備利子補助事業

社会福祉事業の振興を図るため、施設が福祉医療機構から借り入れた資金の利子支払いに対して、補助金を交付した。

〔対象〕 17法人・17施設 〔補助金額〕 911,063円

(15) 寄付金を活用した福祉のまちづくりの推進（共同募金配分、奉仕銀行等）

① 寄付受入・配分事業

i) 寄付の受入

本会に寄せられた寄付の受入れを行い、寄付者の意向に沿って本会事業で活用した。

〔都度の寄付〕

区分		件数	金額
市域の事業	① 市社協事業全般	49	20,164,720
	② 権利擁護事業	4	23,572,778
	③ 住まい・住まい方に関する相談支援事業	1	11,000
	④ 死後委任事務に関する事業	8	27,482,097
	⑤ 生計困難者に対する相談支援事業	4	205,000
	⑥ ボランティア活動振興基金	0	0
	⑦ その他	5	209,000
	小計	71	71,644,595

区分		件数	金額
区域の事業	① 東区	9	126,903
	② 博多区	4	154,210
	③ 中央区	5	1,425,000
	④ 南区	3	295,000
	⑤ 城南区	15	330,000
	⑥ 早良区	8	117,100
	⑦ 西区	0	0
	小計	44	2,448,213
合計		115	74,092,808

[毎月の寄付 (マンスリーサポーター)]

区分	件数(名)	金額
市社協事業全般	16	142,000

[寄付物品]

主な物品名	件数	金額
車いす、タブレット、安心情報キット 他	6	4,264,601

ii) 福祉団体への助成

市に寄せられた寄付金(補助金)を財源に、奉仕銀行助成金として団体に配分を行った。
 [件数] 9団体 [配分金額] 1,897,973円(備品購入費として配分)

② 福岡市母子福祉会芙蓉基金ひとり親家庭等福祉振興助成事業

ひとり親家庭等が孤立することなく生活できる地域づくりを支援することを目的として、ひとり親家庭等の福祉を増進し地域で支える取組みに対し、助成を行った。
 [助成団体] 4団体 [助成金額] 455,353円

③ 歳末たすけあい運動募金配分事業

歳末たすけあい運動募金の配分を受け、子育て支援団体等が開催する事業等に助成した。
 今年度は新たに、コロナ禍により、ひとり親家庭の困窮が深刻化していることを鑑み、書籍や文房具の購入の一助となるよう「お年玉企画」としてひとり親家庭に図書カードを配付する「ひとり親家庭支援事業」を実施した。

事業区分	対象者・団体	件数
助成事業	子育て支援団体	103
	障がい児者支援団体	68
	社会的課題支援団体	8
	交通遺児支援団体	1
	里親会支援団体	1
	地域活動支援センター	10
社会的課題支援事業	ホームレス支援団体 (使い捨てカイロ配布を2回実施)	5 (2,376パック)
	ひとり親家庭	600

(16) 車いす等の貸出

歩行が困難な高齢者、障がい者等の外出、通院、社会参加等を支援するとともに、学校・団体等の福祉体験学習等の福祉教育に資するため、車いす等を貸し出した。

7. 地域福祉ソーシャルワーカー(CSW)の機能強化

(1) 困難を抱えた人に寄り添いエンパワメントできる専門性を持つCSWの育成

- (2) 様々な生きづらさや共通の問題を持つ方々が自主的につながり、相互に援助し合うセルフヘルプ（自助）グループへの支援
- (3) 多様な相談機関・専門職等との連携強化
- (4) アウトリーチによる相談支援に対応できるCSWの人材配置
- (5) 生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等を対象に、世帯の状況や必要に応じた資金の貸付けを行い、低所得者等の経済的自立と生活意欲の助長や在宅福祉、社会参加の促進を図った。

① 貸付件数、資金別相談件数【附属明細書：P.12（別表10）参照】

② 生活福祉資金貸付調査委員会の開催

令和3年度は、調査委員会に諮る案件（福祉資金生業費）の申込みがなかったため、開催はしなかった。

③ 臨時特例つなぎ資金（再掲）

公的給付制度の申請が受理された住居のない離職者を対象に、当該給付が開始されるまでの生活に必要な資金の貸付相談を行った。なお、令和3年度は貸付けの実績はなかった。

相談	受付	決定	貸付総額
75件	0件	0件	0円

(6) 生活保護世帯等一時貸付金事業（福岡市委託事業）

生活保護世帯や低所得世帯の緊急時の出費等に対する貸付けを行った。

区分	貸付		償還（元金）
	件数	金額（円）	金額（円）
生活保護世帯分	2,509	25,827,854	25,133,750
支援給付分	0	0	0
低所得世帯分	0	0	35,000
離職者緊急支援つなぎ分	0	0	22,000
合計	2,509	25,827,854	25,190,750

8. 運営等及びその他

(1) 会務の運営（理事会・評議員会等）【附属明細書：P.13～14（別表11）参照】

- ① 理事会・評議員会の開催
- ② 評議員選任・解任委員会の実施
- ③ 監査の実施

(2) 各区運営部会の開催

各区の事業推進や課題等について、地域性や実情を踏まえて審議するための機関である各区運営部会を開催した。

(3) 部会、各区校区社協会長会等の開催【附属明細書：P.14～15（別表12）参照】

校区社協との連携・協働により、地域福祉の推進を図ることを目的として、市域での地域福祉部会、及び各区校区社協会長会を開催した。また、民生委員、社会福祉施設関係者との連携・協働を図るため、民生委員児童委員部会及び施設部会を、それぞれ書面で開催した。

(4) 職員の資質向上と人材育成（職員研修、資格取得への支援）

職員研修体系に基づいた職員研修を実施するとともに、社会福祉士等の資格取得を支援し、職員の資質と専門性の向上に努めた。

(5) 人事評価制度の実施

人事評価制度に基づき、人事考課を実施し、職員の育成や配置等に活用した。

(6) 財源の確保（会員の拡充、寄付つき商品の開発等）

寄付つき商品の仕組みを運用するなど自主財源の確保に努めた。

① 寄付つき商品の開発

社会貢献を希望する企業等とともに、本会への寄付つき商品を開発した。

企業名	寄付内容	実績
株式会社ラック 覚書締結日:H25.6.18	「ずーっとあんしん安らか事業応援プロジェクト」 市内在住者施行1件につき200円	1,788件 357,600円
株式会社ライフエッジ 覚書締結日:H26.3.18	「地域課題のお片付けプロジェクト」 福祉関係者からの相談による家財片付け遺品整理引越し 1件につき1,000円	196件 196,000円
翼行政書士・ 社会福祉士事務所 覚書締結日:H26.12.4	「ずーっとあんしん安らか事業応援隊・翼」 新規相談・依頼1件につき200円	82件 16,400円
株式会社Q T n e t 覚書締結日:H28.5.19	「社会をよくする自販機プロジェクト」 自販機売り上げ1本につき10円 ※令和元年10月から、寄付額=本数×9.26円(税抜)×1.1	24,587本 250,539円
一般社団法人 プラスらいふサポート 覚書締結日:H28.8.26	「介護施設の入居・身元保証支援」プロジェクト 身元保証の相談1件につき1,000円	11件 11,000円
宗教法人 清法山 徳純院 覚書締結日:H30.1.1	「ずーっとあんしん納骨堂」 本会を含む福祉関係者より紹介・案内があり、納骨につ ながった場合 1件につき1,000円	10件 10,000円
株式会社 大原キャリアスタッフ九州 覚書締結日:H30.11.19	「社会をよくする自販機プロジェクト」 自販機売り上げの2%	1件 6,644円
一般社団法人えにしの会 覚書締結日:R1.8.6	「あんしん身元保証プロジェクト」 身元保証の契約1件につき2,000円	89件 178,000円
合計		1,026,183円

※平成25年7月事業開始からの累計 6,499,477円

② その他の財源の確保

内訳	件数	金額(円)
会費(正会費)	659	1,845,500
会費(賛助会費)	42,426	24,101,000
広報紙広告	11	740,000
車いす等貸出料	—	1,900
外部講師謝礼	—	776,669
実習生受入謝礼	3	144,000
使用済み切手売却益	—	230,000
合計		27,839,069

(7) 収益事業の実施（市民福祉プラザレストラン運営、自動販売機の設置）

プラザ利用者の利便性を図るとともに、収益金をプラザ福祉啓発事業及び本会事業に活用した。

(8) その他の社協事業

① 戦災引揚死没者追悼式

昭和20年6月19日の福岡大空襲による戦災死没者及び海外からの引揚げの途中で亡なられた人の冥福を祈り、恒久平和への誓いを新たにするため、例年、地域団体とともに死没者追悼式を開催していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、式典は行わず、「福岡市戦没者追悼献花式」に参加した（福岡市と共催）。また、福岡市戦災記念碑前にて本会職員と冷泉公民館・自治協議会の有志による清掃・献花を行った。

実施日	会場	参加者
6月19日	福岡市庁舎1階ロビー	市長、本会常務理事、遺族会連合会会長、市議会議員 ほか
6月19日	福岡市戦災記念碑前（博多区冷泉公園内）	本会職員、冷泉公民館・自治協議会関係者 12人

② 福岡市社会福祉協議会顕彰

社会福祉増進のため意欲的に活動を続け、その功績が顕著な個人、団体に対し表彰を行った。

〔福岡市社会福祉協議会会長 表彰〕 137人・21団体

〔福岡市社会福祉協議会会長 感謝状〕 200人・35団体

③ 福祉サービス苦情解決

本会が実施する福祉サービスの内容をより充実するため、利用者の苦情や意見を幅広く汲み取り、苦情解決に取り組んだ。

④ 友愛訪問事業

福岡市老人クラブ連合会の友愛訪問事業に対し、活動費の助成を行った。

〔補助金額〕 2,655,452円

⑤ 更生保護施設助成事業

更生保護の推進を目的とした活動を行っている団体に対して、補助金を交付した。

〔対象〕 3団体 〔補助金額〕 1,830,000円

⑥ ふれあい入浴事業

高齢者の健康増進や交流を目的とする「ふれあい入浴事業」の活動を支援するため、市内の公衆浴場に対し、福岡市の補助金を財源として事業費の助成を行った。

〔助成箇所数〕 12か所

〔助成額〕 4,470,000円

⑦ 視察の受入【附属明細書：P.15～16（別表13）参照】

団体等からの依頼に応じて視察の受入れを行った。（延べ13団体、142人）

⑧ 講演等の依頼【附属明細書：P.16（別表14）参照】

団体等からの依頼に応じて講演等を行った。（延べ23団体、2,415人）

令和3年度 事業報告

【附属明細書】

・別表 1	子どもの居場所（区社協が支援した居場所づくり）	1
・別表 2	地域が主体の買い物支援	3
・別表 3	終活出前講座	4
・別表 4	成年後見出前講座	5
・別表 5	福岡市市民後見人養成研修	6
・別表 6	家族介護者のつどい	7
・別表 7	校区社協の運営及び事業に対する助成・支援	8
・別表 8	市民福祉プラザ貸室等利用状況	9
・別表 9	民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業	10
・別表 10	生活福祉資金貸付事業	12
・別表 11	会務の運営	13
・別表 12	部会の開催	14
・別表 13	視察の受入	15
・別表 14	講演等の依頼	16

※特に記載がない場合、文中、グラフ・表中の数値は令和4年3月31日現在のもの。

※「中止」「休止」は、新型コロナウイルスの影響によるもの。

別表1 子どもの居場所（区社協が支援した居場所づくり）

校区・地区	名称	主な機能			
		居場所	食事提供	学習支援	
東	美和台	ななカフェ♥こども食堂	○	○	○
	香椎浜	ぽてとはうす	○	○	
	舞松原	舞♥my キッチン	○	○	
	箱崎	ぽあんの樹	○	○	○
		無料学習スペースエルトコ			○
		子ども食堂フェアリー	○	○	
	香椎	えがお広場	○	○	
	香住丘	香住丘すまいるキッチン	○	○	
		夜の香住っ子ひろば	○	○	○
	香椎下原	しもぼる広場	○	○	○
	筥松	はらだ2丁目食堂	○	○	○
	馬出	「子どもサポート・ナルド」馬出こども食堂	○	○	○
	青葉	なかよしキッチン	○	○	
	多々良	ベリーベリーグッドランド	○	○	
		はあとスペース「まちかど図書館」	○	○	
	名島	ふくふく子ども食堂	○	○	
		名島げんきもりもりハウス	○	○	○
		ほばしらみんなのふね	○	○	○
松島	一二三食堂	○	○		
和白東	アソシエキッズわひがのWa	○	○	○	
若宮	フリースペースわかみや	○	○		
博多	那珂	山王学舎こども食堂	○	○	○
	東住吉	麻生塾子ども食堂すみーる	○	○	○
	奈良屋	ふくおかこども「おにぎり塾」		○	
	板付北	いたきたこども食堂	○	○	
	大浜	おおはま寺子屋			○
	弥生	やよいの森	○		○
	席田	げんき堂こども食堂	○	○	
	堅粕	ワンコインレストラン「ハーモニー」	○	○	
	東吉塚	東吉塚学習支援			○
中央	大名	グランマキッチンカフェ	○	○	○
	簗子	子ども食堂 『絆』	○	○	○
	笹丘	笹丘ふれあい食堂	○	○	○
		わくわく広場	○	○	○
		たんぼぼこども食堂	○	○	○

校区・地区		名称	主な機能		
			居場所	食事提供	学習支援
	当仁	海と空のひろば	○	○	
	警固	夢食堂		○	
	春吉	釜山亭こどもランチ		○	
	警固/赤坂	キラキラえがお Fukuoka こども食堂	○	○	○
南	長住	子ども勉強広場	○	○	○
	西花畑	のほほんタイム	○	○	
		福岡てらこやあそび	○		○
	三宅	ハレルヤ食堂	○	○	○
	西高宮	こひつじの園ランチカフェ	○	○	○
	東若久	子どものための自学室	○		○
		町内自学塾	○	○	○
	弥永西	やにしスマイル	○	○	○
子ども基地ツリーハウス		○	○	○	
城南	七隈	ななっこ料理道場	○	○	
	田島	ちゃちゃの会	○		
	金山	子どもの居場所	○		
	城南	子どもの居場所 (子どもテラス)	○	○	○
	堤丘	心笑食堂	○	○	○
	別府	別府子ども食堂		○	
早良	有田	こども食堂さい	○	○	
	大原	大原すまいるキッチン	○	○	○
	四箇田	さわら子ども食堂	○	○	
	内野	こども食堂YOKAYOKAネット	○	○	○
	野芥	つくって食べよう土曜昼!	○	○	○
	入部	みんなのおうち ゆい	○	○	○
	高取	こころふくよか	○	○	○
西	壱岐東	こども食堂「いきひがし」	○	○	
	城原	子ども食堂「タベルバ」(※R2年度以降休止)	○	○	○
	壱岐南	学 viva	○	○	○
	西陵	寺子屋せいりょう	○		○
	石丸	石丸食堂	○	○	

別表2 地域が主体の買い物支援 ※試行実施含む

区	校区	地区	内容	協力企業・施設等	開催延べ回数
東	青葉	みどりが丘1～3丁目自治会	買い物先への送迎	株式会社彩苑、福岡シティ物流株式会社	7
		土井団地2区自治会	買い物先への送迎	原土井病院	※休止
		青葉台自治会			※休止
		土井団地2区自治会	臨時販売	株式会社大輝、久本青果、青葉デイサービス、あおば保育園、特別養護老人ホームなごみの里	8
		青葉台自治会			株式会社大輝
	八田	若宮1-1自治会	買い物先への送迎	特別養護老人ホーム光薫寺ビハラー	5
		緑ヶ丘自治会			6
	香椎浜		買い物同行	ボランティアグループ	※休止
	香椎東		買い物先への送迎	ボランティアグループ	24
	城浜		移動販売	株式会社大輝	12
	多々良	大橋浜田自治会	買い物先への送迎	株式会社彩苑、福岡シティ物流株式会社	8
	若宮		買い物先への送迎	株式会社彩苑、福岡シティ物流株式会社	5
	和白	和白3区町内会	買い物先への送迎	株式会社メモリード	※休止
	香住丘	唐原市住/唐原東市住/丸尾市住	移動販売	株式会社大輝	23
			買い物先への送迎	—	155
	美和台		移動販売	筑前はかたや、株式会社大輝	52
博多	席田	大井町内	移動販売	久本青果	50
		東平尾町内			4
	東光	上牟田	移動販売	ポパイ	50
		東比恵	移動販売	医療法人ながら医院、道の駅あさくら、石村萬盛堂、REC COFFEE	※休止
	月隈	金隈新町	買い物先への送迎	医療法人相生会金隈病院	※休止
	東月隈	下月隈団地	買い物先への送迎	アットホーム博多の森、愛心の丘	※休止
			臨時販売	株式会社大輝	23
板付		買い物先への送迎	アットホーム諸岡	※休止	
中央	小笹	小笹1丁目 小笹3丁目2区	買い物先への送迎	株式会社やぐらもん	19
	笹丘	輝国/小笹4丁目/笹丘3丁目	買い物先への送迎	株式会社やぐらもん	7
	福浜	福浜団地1・2・3棟自治会	買い物同行	西日本短期大学	2

区	校区	地区	内容	協力企業・施設等	開催延べ回数
南	東花畑		買い物先への送迎	総合葬祭西日本典礼やよい坂斎場	4
			移動販売	筑前はかたや	46
	長丘		買い物先への送迎	株式会社飛鳥 飛鳥会館	※休止
	西高宮		買い物先への送迎	株式会社飛鳥 飛鳥会館	2
	鶴田	柏原東町内会	買い物先への送迎	株式会社飛鳥 飛鳥会館	※休止
		鶴田3区町内会	移動販売	筑前はかたや、ベーカリーチャンプ、豆吉郎	49
	柏原		買い物先への送迎	株式会社飛鳥 飛鳥会館	※休止
				ボランティアグループ	※休止
西花畑		買い物先への送迎	デイサービス絵日記	※休止	
早良	入部	重留3丁目自治会	買い物先への送迎	さわら南よかところネット	8
			移動販売	株式会社とくし丸	46
	早良		買い物先への送迎	さわら南よかところネット	32
	脇山	椎原町内	買い物先への送迎	さわら南よかところネット	12
西	能古	北浦・東・江ノ口・西・大泊	サングリン 買い物送迎ツアー	株式会社サングリン、特別養護老人ホーム能古清和園	※休止
		能古清和園	移動販売	セブンイレブン小戸4丁目店	※休止
		島内5か所	移動販売	のこのしまアイランドパーク、のこの市	7
	壱岐南	ふら〜っとカフェ 壱岐南	移動販売	株式会社とくし丸	1
	元岡	田尻東・田尻西・桑原・泉東	買い物先への送迎	特別養護老人ホーム寿生苑、軽費老人ホーム玄洋荘、特別養護老人ホーム美の里、デイサービスよかよかⅡ	※休止

別表3 終活出前講座

実施日	会合名等	開催場所	参加者(人)
4月15日	横手校区社協・横手ふれあいサークル	横手公民館	30
6月23日	ほがらかシニア広場	西都公民館	15
6月30日	横手3丁目クラブ長寿会	横手3丁目会館	20
7月20日	赤坂校区福祉講座(連続講座)	赤坂公民館	30
10月04日	URコミュニティ	UR四箇田団地集会所	18
10月09日	田村校区社協研修会	田村公民館	40
10月16日	小笹平和会(老人クラブ)	小笹公民館	30
10月19日	赤坂校区福祉講座(連続講座)	赤坂公民館	30
11月02日	居宅ケアマネ 合同研修	オンライン開催	20
11月09日	カフェ四箇田	四箇田公民館	24

実施日	会合名等	開催場所	参加者（人）
11月11日	春吉校区ふれあいサロン 「かたらんね春吉」	春吉公民館	12
11月12日	東油山サロン	東油山町会館	20
11月24日	高齢者ふれあいサロン 豆の木	室見団地第1集会所	20
11月27日	今津校区緑町ネット研修	今津公民館	40
12月04日	男女共同参画を進める会研修	玄洋公民館	30
12月05日	ひるず悠々会（老人クラブ）	レイクヒルズ野多目	52
12月06日	公民館主催・福祉講座	野多目公民館	40
12月15日	サロン万葉	七隈公民館	35
12月21日	民生委員児童委員協議会定例会	福浜公民館	10
1月15日	公民館・福祉講座（連続講座）	塩原公民館	30
1月17日	校区社協福祉講座	下山門公民館	29
1月21日	小笹平和会（老人クラブ）	小笹公民館	30
1月28日	（西区地域保健福祉課主催）	西保健所講堂	16
2月02日	老人クラブ	鳥飼公民館	20
2月05日	公民館・福祉講座（連続講座）	塩原公民館	30
2月19日	公民館・福祉講座（連続講座）	塩原公民館	31
2月22日	赤坂公民館・高齢者教室	赤坂公民館	30
2月24日	参の会定例会 （西区事業所ネットワーク）	城原公民館	15
3月05日	公民館・福祉講座（連続講座）	塩原公民館	30
3月16日	ふれあいサロンすこやか教室	愛宕公民館	40
3月17日	終活寸劇	当仁公民館	21
合計		31件	838

別表4 成年後見出前講座（令和3年10月～）

実施日	依頼団体	開催場所	参加者（人）
11月18日	東区第1障がい者基幹相談支援センター	なみきスクエア	36
12月10日	福岡市市長室広聴課	市民福祉プラザ2階	20
1月12日	障害児・者の生活と権利を守る会	あいあいセンター	30
2月22日	東障がい者フレンドホーム	東障がい者フレンドホーム （来所及びオンライン開催）	10 （※）
3月08日	早良区多職種連携研修会	オンライン開催	97
合計		5件	193

※東障がい者フレンドホームの参加者数は会場来所参加者のみ掲載。

別表5 福岡市市民後見人養成研修（全35科目）

実施日	内容	新規受講者（人）
9月 (動画配信)	①開講式・オリエンテーション ②成年後見制度の概要－(1) ③成年後見制度の概要－(2) ④成年後見制度の概要－(3) ⑤成年後見制度の概要－(4) ⑥法人後見事業・市民後見人の役割 ⑦高齢者の理解（認知症） ⑧福岡市の福祉制度－高齢者施策 ⑨障がい者の理解（知的障がい） ⑩障がい者の理解（精神障がい） ⑪福岡市の福祉制度－障がい者施策	39
9月29日	振り返り会 ⑫コミュニケーションの基本【演習】	37
10月 (動画配信)	⑬家庭裁判所の役割 ⑭民法の基礎 ⑮成年後見の実務－(1)開始の申立 ⑯成年後見の実務－(2)就任時の事務 ⑰成年後見の実務－(3)一般事務(財産管理①) ⑱成年後見の実務－(4)一般事務(財産管理②) ⑲成年後見の実務－(5)一般事務(身上保護①) ⑳成年後見の実務－(6)一般事務(身上保護②) ㉑成年後見の実務－(7)不定期・特別な事務 ㉒成年後見の実務－(8)報告・申立 ㉓成年後見の実務－(9)終了時の事務	38
11月1日	振り返り会	33
11月 (動画配信)	⑳関係制度－(1)年金 ㉑関係制度－(2)健康保険・医療制度 ㉒関係制度－(3)生活保護 ㉓法テラスについて ㉔消費者被害について ㉕日常生活自立支援事業とは ㉖地域福祉活動と社会資源 ㉗住まいの種類 ㉘終活について ㉙成年後見制度の現状と課題 ㉚成年後見制度利用促進法（中核機関）	38
11月26日	㉛意思決定支援【演習】 振り返り会 閉講式	37

※演習・振り返り会の当日欠席者については12月に動画聴講で対応。

※受講者のうち、全科目を受講した修了者は37名。

別表6 家族介護者のつどい

区	校区・町内・団体	実施日	会場	参加者(人) (介護者のみ)
東	東区小規模多機能ネットワーク	11月19日	なみきスクエア	14 (5)
	香陵	3月11日	香陵公民館	18 (1)
博多	弥生	11月18日	弥生公民館	15 (6)
中央	簗子	12月03日	簗子公民館	10 (2)
南	西花畑	11月04日	西花畑公民館	4 (4)
	野多目	11月26日	野多目公民館	30 (13)
	大楠	7月15日 10月15日 2月17日	大楠公民館	40 (30)
	老人福祉センター 若久園	毎月1回 (第4木曜)	老人福祉センター若久園	57 (38)
城南	田島	9月11日	よりあいの森 古民家	7 (4)
	七隈	7月03日 10月16日	七隈公民館	15 (5)
	城南区社協	11月11日	城南保健所	9 (5)
早良	野芥	毎月1回 (第3金曜)	野芥公民館	2 (2)
	飯原	毎月1回 (第1水曜)	飯原公民館	2 (2)
	有田	6月25日	有田公民館	※中止
		2月16日		16 (0)

別表7 校区社協の運営及び事業に対する助成・支援

区	区分	助成校区数	金額（円）	備考
東	共同募金校区社協助成金	27	4,065,224	
	共同募金地区福祉事業費助成金	27	3,433,647	
	賛助会費交付金	27	4,974,500	前年度実績の50%を助成
博多	共同募金校区社協助成金	22	3,993,900	
	共同募金地区福祉事業費助成金	22	4,238,600	
中央	共同募金校区社協助成金	13	2,361,394	
	共同募金地区福祉事業費助成金	13	3,719,205	
南	共同募金校区社協助成金	25	3,822,633	
	共同募金地区福祉事業費助成金	25	3,543,516	
	賛助会費交付金	25	3,944,500	前年度実績の70%を助成
城南	共同募金校区社協助成金	11	1,893,196	
	共同募金地区福祉事業費助成金	11	2,858,954	
早良	共同募金校区社協助成金	24	3,765,038	
	共同募金地区福祉事業費助成金	24	3,615,500	
	賛助会費交付金	24	3,489,300	前年度実績の60%を助成
西	共同募金校区社協助成金	24	4,173,700	
	共同募金地区福祉事業費助成金	24	2,848,000	
	賛助会費交付金	19	769,000	前年度実績の50%を助成

別表 8 市民福祉プラザ貸室等利用状況

区分		利用状況		
貸出施設	ふくふくホール	利用日数	165 日	
		利用者数	14,826 人	
	会議室 (3 室)	利用日数	713 日	
		利用者数	18,798 人	
	研修室 (7 室)	利用日数	1,519 日	
		利用者数	45,354 人	
	和室・実習室 (7 室)	利用日数	877 日	
		利用者数	14,203 人	
	交流ひろば	利用日数	162 日	
		利用者数	3,963 人	
	計	利用日数	3,463 日	
		利用者数小計	97,144 人	
	その他の施設	福祉用具展示場	利用者数	5,450 人
		施設見学	団体数	22 団体
利用者数			345 人	
ボランティアルーム等		利用件数	1,513 件	
		利用者数	6,474 人	
福祉図書・情報室		開室日数	251 日	
		利用者数	20,727 人	
		新規登録者数	202 人	
		貸出冊・本数	8,420 冊	
		対面朗読	30 件	
計	利用者数小計	32,996 人		
利用者総数		130,140 人		
開館日数		257 日		
1 日平均利用者数 (利用者総数/開館日数)		506 人		

別表9 民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業

(1) 給付事業

内容		決算額	
種別	単価(円)	件数	金額(円)
結婚祝金	30,000	134	4,020,000
出産祝金	30,000	163	4,890,000
入学祝金	30,000	256	7,680,000
義務教育修了祝金	30,000	102	3,060,000
死亡見舞金		85	2,534,000
本人	100,000	2	200,000
被扶養者	70,000	4	280,000
その他	26,000	79	2,054,000
傷病見舞金		20	600,000
15日以上	20,000	10	200,000
31日以上	40,000	10	400,000
災害見舞金		1	30,000
全焼(壊)	100,000	0	0
半焼(壊)	70,000	0	0
その他	30,000	1	30,000
小計		761	22,814,000
退会一時金	支給率で算出	731	67,734,586
合計		1,492	90,548,586

(2) 貸付事業

内容		決算額	
種別	貸付限度額(円)	件数	金額(円)
生活資金		3	600,000
5年未満	120,000	0	0
5年以上	150,000	0	0
10年以上	200,000	3	600,000
慶弔資金	250,000	0	0
医療資金	250,000	0	0
入学資金		4	1,650,000
高校	250,000	1	250,000
大学※	500,000	3	1,400,000
罹災資金	500,000	0	0
合計		7	2,250,000

※40万円の借入が1件。

(3) 長期加入職員記念品贈呈事業

区分		決算額	
加入期間	記念品額(円)	件数	金額(円)
5年	5,000	291	1,455,000
10年	10,000	136	1,360,000
15年	10,000	97	970,000
20年	15,000	54	810,000
25年	15,000	35	525,000
30年	20,000	13	260,000
35年	20,000	7	140,000
送料・挨拶状印刷費			104,350
合計		633	5,624,350

(4) 文化体育事業

内容		決算額	
区分	補助額(円)等	件数	金額(円)
文化鑑賞引換券補助	一人当たり上限4,000円	5,466	※17,266,300
映画鑑賞補助	費用の一部	7,006	2,398,510
観劇補助	費用の約1/2	78	436,800
プロ野球観戦補助	費用の約1/2	240	151,001
Jリーグ観戦補助	費用の約1/2	24	36,000
海浜プール利用補助	費用の一部	0	0
スポーツ施設利用補助	費用の一部	0	0
その他補助	費用の一部	2,264	2,679,728
合計		15,078	22,968,339

※文化鑑賞引換券補助…17,266,300円のうち420,000円は、福岡市補助金収入を充当。

別表 10 生活福祉資金貸付事業

(1) 貸付件数

①通常枠(本則に基づく貸付)

資金種類	貸付決定額等	
	件数	金額(円)
福祉資金(福祉費)	42	11,458,000
福祉資金(緊急小口資金)	11	1,034,000
教育支援資金	353	137,041,000
総合支援資金	0	0
不動産担保型生活資金	3	51,940,000
臨時特例つなぎ資金	0	0
合計	409	201,473,000

②新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な資金の特例貸付(福岡市社協受付分)

資金種類	貸付決定額等	
	件数	金額(円)
緊急小口資金	10,507	2,054,184,000
総合支援資金(初回・延長貸付)	10,895	5,671,902,000
総合支援資金(再貸付)	7,739	4,026,860,000
合計	29,141	11,752,946,000

(2) 資金種別相談件数

資金種別	件数
福祉資金(福祉費)	1,021
緊急小口資金	481
教育支援資金	2,076
総合支援資金(通常枠)	532
不動産担保型生活資金	98
臨時特例つなぎ資金	75
コロナ特例貸付(※)	53,283
その他(貸付対象に非該当など)	2,113
合計	59,679

※新型コロナウイルス感染症の影響による一時的な資金の特例貸付(緊急小口資金及び総合支援資金)は、令和2年3月23日から受付を開始した。

別表 1 1 会務の運営

(1) 理事会の開催

実施日	審議事項等	出席者(人)または 決議の省略の場合は 同意者等(人)
〈第1回〉 4月1日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常務理事の選定 ・ 西区担当理事の選定 	理事 18 監事 3
〈第2回〉 6月7日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度事業報告 ・ 令和2年度収支決算 ・ 職員就業規則の一部改正案 ・ 次期役員候補者の選任 ・ 次期評議員選任候補者の推薦 ・ 次期評議員選任・解任委員会委員の選任 ・ 第6期地域福祉活動計画案 ・ 決議の省略の方法による定時評議員会の招集 	理事 17 監事 3
〈第3回〉 6月25日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会長、副会長、常務理事、区担当理事の選定 ・ 職員の給与に関する規則の一部改正案 	理事 18 監事 3
〈第4回〉 3月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度第1次資金収支補正予算案 ・ 令和4年度事業計画案 ・ 令和4年度資金収支予算案 ・ 定款の一部変更案 ・ 事務局の組織及び事務分掌規程の一部改正案 ・ 職員就業規則の一部改正案 ・ 文書規程の一部改正案 ・ 職員の給与に関する規則の一部改正案 ・ 職員等旅費支給規程の一部改正案 ・ 経理規程の一部改正案 ・ 役員の報酬等に関する規程の一部改正案 ・ 令和3年度第2回評議員会（臨時評議員会）の招集 ・ 会長及び常務理事の職務執行状況報告 ・ 令和2年度収支決算書の訂正について 	理事 13 監事 2
〈第5回〉 3月30日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事候補者の選任 ・ 評議員選任・解任委員会委員の選任 ・ 役員の報酬等に関する規程の一部改正案 ・ 決議の省略の方法による評議員会の招集 	理事 18 監事 3

(2) 評議員会の開催

実施日	審議事項等	出席者(人)または 決議の省略の場合は 同意者(人)
〈第1回〉 定時評議員会 6月25日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度事業報告 ・ 令和2年度収支決算 ・ 次期役員の選任 	26

実施日	審議事項等	出席者(人)または 決議の省略の場合は 同意者(人)
〈第2回〉 臨時評議員会 3月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第1次資金収支補正予算案 ・令和4年度事業計画案 ・令和4年度資金収支予算案 ・定款の一部変更案 ・役員の報酬等に関する規程の一部改正案 ・令和2年度収支決算書の訂正について 	21 (理事2)
〈第3回〉 臨時評議員会 3月31日 (決議の省略)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事の選任 ・役員の報酬等に関する規程の一部改正案 	27

(3) 評議員選任・解任委員会の実施

決議があった日	内容等	出席者(人)または 決議の省略の場合は同意者(人)
〈第1回〉 6月24日(決議の省略)	評議員の選任	5

(4) 監査の実施

実施日	監査事項等	監事(人)
5月14日～5月24日 (書面により実施)	業務執行の状況及び財産の状況を監査	3

別表12 部会の開催

(1) 地域福祉部会

開催日	内容(議題)	参加者(人)
〈第1回〉 書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市奉仕銀行運営委員会委員について ・買い物支援に関する個別説明会とアンケート調査の実施について ・避難行動要支援者名簿の貸与および回収について ・令和2年度共同募金実績報告及び、令和3年度赤い羽根ありがとうマップ掲載について ・令和3年度校区社協事業及びふれあいサロンの緊急事態宣言発出時の対応について ・令和3年度新規事業について ・認知症介護家族やすらぎ支援事業 ・住まいサポートふくおか事業(利用対象者の拡大) ・地域包括支援センター事業 ・ベジフルスタジアム活性化委員会との協働による食材提供支援事業(東区) ・外国人介護人材と地域をつなぐ「草の根交流プロジェクト」 	14
〈第2回〉 11月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿の活用について ・令和4年度暑さ指数計を活用した声かけ支援(熱中症予防)事業について ・第6期地域福祉活動計画について ・買い物支援アンケートの結果について ・福岡市成年後見推進センターの開設について ・コロナ禍における「はなれても つながる」活動について 	14

開催日	内容（議題）	参加者（人）
<第3回> 書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・助成関係書類の様式変更（押印等廃止）について ・共同募金地区福祉事業費助成金の算定基礎となる募金実績について ・買い物支援アンケートの最終結果と今年度の取り組みについて 	14

(2) 施設部会

開催日	内容（議題）	参加者（人）
書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市社会福祉協議会 第6期地域福祉活動計画について ・大都市社会福祉施設協議会について ・福祉教育の推進について ・信託制度を活用した「障がい者の親なき後問題」「8050問題」の支援スキームの検討について 	21

(3) 民生委員児童委員部会

開催日	内容（議題）	参加者（人）
書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・第6期地域福祉活動計画に基づき取り組んでいる新たな事業等について ・校区社協における避難行動要支援者名簿の活用について ・信託制度を活用した「障がい者の親なき後問題」「8050問題」の支援スキームの検討について 	7

別表13 視察の受入

日付	団体名	視察内容	人数（人）
5月24日	NPO 法人ドネルモ	福岡市歯科口腔保健推進について	4
7月8日	千葉県佐倉市福祉部高齢者福祉課	住まいサポートふくおか、終活サポートセンター事業等について	16
10月5日	神奈川県秦野市社会福祉協議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	3
10月12日	全国居住支援法人協議会	社会貢献型空家バンク事業について	6
11月2日	千葉県佐倉市議会文教福祉常任委員会	終活サポートセンター及び事業開発について	9
12月8日	島根県立吉賀高校	総合的な探求の時間「アントレプレナーシップ教育」ふれあいサロンについて	5
12月17日	福岡県リサイクル総合研究事業化センター	子ども食堂への食材提供支援事業	2
12月17日	滋賀県内社会福祉協議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	30
12月22日	東京都小金井市議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	8
2月1日	大分県・宇佐市・別府市議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	3
2月7日	神奈川県内社会福祉協議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	48
2月16日	久留米市議会	やすらかパック事業、終活サポートセンター	2

日付	団体名	視察内容	人数(人)
3月7日	奈良県立大学住宅セーフティネット研究会	住まいサポートふくおか、社会貢献型空家バンク事業等について	6

別表14 講演等の依頼

日付	依頼団体・講座名等	講演内容等	人数(人)
4月30日	純真学園大学	ボランティア活動について	600
5月07日	九州アジア経営塾セミナー	SDGs 関連の取り組みについて	15
5月27日	日本ジェロントロジー協会と全社協の勉強会	福岡市社協の事業概要と特徴的な事業について	23
6月05日	日本社会福祉学会九州地域部会	新たな時代の新たな社会福祉	300
7月21日	福岡県生活支援コーディネーター初任者研修	ニーズの把握や課題の抽出、目標の設定から、地域の現状分析や要因・問題の発見、取組みの手順・戦略の立案、そして、社会資源の開発へ	130
7月30日	福岡市進路保障研究会	子どもの貧困に対して大人ができることを具体化しよう	350
8月03日	福岡大学医学部看護学科	地域福祉活動の理念と実際	106
10月05日	西区民生委員児童委員協議会 地域福祉部会	ふれあいネットワークについて	70
10月11日	九州大学歯学部	バリアフリーからユニバーサルデザインへ	57
10月15日	居住支援法人研修会	住宅確保要配慮者に対する居住支援の取組みについて	85
10月18日	中村学園大学	地域との協働による買い物支援について知る	10
10月19日	東京都小金井市(国交省伴走支援PJ)	福岡市における居住支援の取組みについて	19
11月05日	愛知県岡崎市(国交省・厚労省)	高齢者の住まいの確保と生活支援の取組みについて	16
11月15日	中村学園大学	移動販売をより良くするための学生それぞれの課題解決案の発表	10
11月30日	福岡市民生委員児童委員協議会 高齢者部会	地域包括ケアシステムについて考える	30
12月04日	大牟田市住まいと自分の終活セミナー	終活と空家活用について	48
1月24日	福岡県チームオレンジコーディネーター研修	チームオレンジの立ち上げについて —認知症の人にやさしいまちづくり—	120
1月28日	広島県廿日市市	福岡市社協における居住支援について	25
1月31日	宮崎県内社会福祉協議会	ずーっとあんしん安らか事業、やすらかパック事業、終活サポートセンター、遺贈	50
2月14日	第一薬科大学 看護学部	住民主体による地域福祉活動と社協CSWの支援	78
2月17日	第一薬科大学 看護学部	宮竹校区の概況と校区の地域活動について(オンライン開催)	80
3月11日	福岡医療団	社会福祉協議会の活動について(オンライン)	23
3月19日	日本地域福祉学会 2021年度公開フォーラム	事業開発と各種事業内容について	170